



Kagawa University
Faculty of Medicine
2024

臨床実習実施要項

(二〇二四年一月～二〇二四年十二月)

香川大学医学部

2024

臨床実習実施要項
(教育要項別冊)
(医学実習 I)

香川大学医学部

臨床実習を始めるに当たって

人口構成の少子・高齢化、疾病構造や環境の変化、価値観の個性化など医療を取り巻く状況は大きく変わりつつあります。21世紀には、幅広い教養と豊かな感性をもち、人間性への深い洞察力、倫理観、生命の尊厳についての深い認識をもった人間性豊かな医療人の育成が求められています。特に臨床実習の場は、これらが如何なる意味をもち大切であるかを考え、体得する絶好の機会であり、医学教育の6年間の総決算ともいえるものです。

みなさんは既に正常な人体の構造と機能、人の健康、疾病とその予防、全科にわたる臨床講義、診断、治療に必要な基礎的技術などを知識として学び理解してきました。これらの高度の医学的知識を活かし、個々の患者さんに対して能動的、自発的に問題解決、課題探究能力を養うことが大切であり、そのためには先ず綿密な観察力と洞察力が必要です。基本的技術としては面接、問診の方法、臨床検査法の選択と結果の解釈、得られた情報を整理し、総合的に判断する診断能力、治療計画などの技法がありますが、実際の臨床の場で患者に即して応用する方法を習得することが大切であります。単なる知識や技術をサイエンスと呼びますが、これらの医学知識のみで病気に対処するのでは医学であっても医療ではありません。患者さんの個々に応じて、生命の尊厳を真摯に受け止め、思いやりや、いとおしみをもって豊かな感性のもとに、用いられる技を医のアートと呼びます。そのためには高い知識と技術をもつことは当然ですが、患者さんに対して人間性を重んじ、ヒューマニズムにあふれる全人的態度で接することが大切です。その時医師、自らも人間的に、かつ医学的に成長します。また患者さんに接する時は寛いだ雰囲気、自由に話を聞き、よきコミュニケーションを保つことが大切です。「患者さんはわが師なり」という有名な言葉があります。常に謙虚で医のアートの実践を心掛け、はじめに述べた21世紀に求められる医療人の姿をもう一度、思い起こしてください。

終わりにこれからの通算の1年7ヶ月は、これまでにくらべて試験などもあまりなく、受動的であれば、そのまま放っておかれます。疑問や理解できにくい点は、その日のうちに解決し、能動的に自らが学ぶ習慣をもってこの臨床実習に臨んでください。そうすれば必ずや十分な成果が期待できます。みなさんの一層の奮起を祈っています。

目 次

I 医学実習 I の概要	1
--------------	---

II 医学実習 I 配置表

1 医学実習 I 各科別配置表	4
2 医学実習 I グループ別配置表	6

III 臨床実習上の注意事項	8
----------------	---

IV 各科実習要綱

内科学（血液・免疫・呼吸器内科学）	16
内科学（循環器・腎臓・脳卒中内科学）	19
内科学（消化器・神経内科学）	23
小 児 科 学	26
周産期学婦人科学	29
精 神 神 経 医 学	32
外科学（心臓血管外科学）	35
外科学（消化器外科学）	38
外科学（呼吸器・乳腺内分泌外科学）	41
整 形 外 科 学	44
泌 尿 器 科 学	47
脳 神 経 外 科 学	50

眼 科 学	53
耳 鼻 咽 喉 科 学	56
麻 醉 科 学	59
総 合 診 療 医 学	62
放 射 線 医 学	65
放射線腫瘍学（放射線治療科）	67
皮 膚 科 学	70
地域医療学（地域医療教育支援センター）	73
救急災害医学（救命救急センター）	76
総合周産期母子医療センター	79
歯 科 口 腔 外 科 学	82
内 分 泌 代 謝 ・ 先 端 医 療 ・ 臨 床 検 査 医 学	85
小 児 外 科 学	88
形 成 外 科 学	90
臨 床 腫 瘍 学	93
V 附属病院の案内	96

I 医学実習 I の概要

1 臨床実習の特徴

臨床実習は卒前医学教育の精髓である。この期間の特徴は、みなさんが患者のみならず、臨床医学教員およびその他の医療担当者に接触をもつことであって、みなさんの医師としての生涯にわたる知識、技術、態度の基礎は、この実習期間に培われ、定まるといっても過言ではない。

2 臨床実習の目標

実際に患者に接しつつ、これまでに知識として習得してきた医学を実践し、医療について学び、経験を積むことによって、医学知識を集約し、医療の基本的技術を習得する。更に、病める人に対する、医師としての態度、命の尊厳に対する謙虚な態度を身につける。

3 医学実習 I の期間・場所

期 間 2024 年 1 月 4 日～2024 年 12 月 6 日

場 所 附属病院

4 医学実習 I の評価

医学実習 I の学習目標を達成するため、及びその達成度の評価が行われる。評価方法については、次頁のとおりとする。

5 そ の 他

- ・臨床実習は、全時間出席することを原則とする。
- ・予め臨床実習中の事故に備えた賠償責任保険等に必ず加入しておくこと。
(例：学研災付帯学総、学生賠償保険(大学生協)等)
- ・症例検討発表会等のため、電子カルテの情報(画像等を含む)が必要な場合は、原則、授業担当教員または主治医に依頼すること。提供を受けた情報(画像等を含む)は、指導教員のもと、適切な方法で情報管理及び使用後の廃棄処分を行うこと。

医学実習 I の評価方法

1 実習評価

実習学生の実習態度等についての評価は、実習担当診療科の教員が下記項目について毎週チェックしており、評価システムに Web 入力している。

<評価共通項目> ②～⑤は6が最良

- ① 出席状況 (0から5)
- ② 実習への熱意 (0から6)
- ③ 知識とスキル (患者への配慮を含む) (0から6)
- ④ 課題達成 (0から6)
- ⑤ 総合評価 (0から6)

このうち⑤を当該診療科の実習成績とする。

最高点は 6×26 (診療科数) = 156点となる

これらの項目すべて、医学部教育センター HP から学生自身が参照することができる。最上段のバナーで「学務・評価」にカーソルを合わせると、「実習評価管理システム」が現れるので、そこをクリックする。(下図)



ログインのためのユーザー ID はログイン画面で説明しており、パスワードは、臨床実習開始式の際に個別配布する。

2 総合試験

医学実習 I 終了時に、100問からなる総合試験 (多肢選択問題) を実施する。

3 最終評価

実習評価と総合試験をそれぞれ100点満点に換算し、実習評価75点未満、総合試験は平均点 - 2SD 未満のいずれかの学生は医学実習 II に進むことができず、医学実習 I の再履修が必要となる。

Ⅱ 医学実習Ⅰ配置表

1 医学実習 I 各科別配置表

科目	週																			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
期間	1/4	1/8	1/15	1/22	1/29	2/5	2/12	2/19	2/26	3/4	3/11	3/18	4/1	4/8	4/15	4/22	5/6	5/13	5/20	5/27
	1/5	1/12	1/19	1/26	2/2	2/9	2/16	2/23	3/1	3/8	3/15	3/22	4/5	4/12	4/19	4/26	5/10	5/17	5/24	5/31
内科学(血液・免疫・呼吸器内科学)	B		A		O		E		J				L		S		N		C	
内科学(循環器・腎臓・脳卒中内科学)	L		B				S		N		C		I		U		Q		G	
内科学(消化器・神経内科学)	P		C		I		U		Q		G		R		M		D		H	
小児科学	S		D		H		P		K		F		T		A		O		E	
周産期学婦人科学	E				J		B		L		S		N		C		I		U	
精神神経医学	O		F		T		A				E		J		B		L		S	
外科学(心臓血管外科学)	N		G		R		M		D		H		P		K		F		T	
外科学(消化器外科学)	J		H		P		K		F		T		A		O		E			
外科学(呼吸器・乳腺内分泌外科学)	A		I		U		Q		G		R		M		D		H		P	
整形外科学	R		J		B		L		S		N		C		I		U		Q	
泌尿器外科学	U		K		F		T		A		O		E		J		B		L	
脳神経外科学	H		L		S		N		C		I		U		Q		G		R	
眼科学	F		M		D		H		P		K				T		A		O	
耳鼻咽喉科学	K		N		C		I		U		Q		G		R		M		D	
麻酔科学	M		O		E		J		B		L		S		N		C		I	
総合診療医学	D		P		K		F		T		A		O		E				B	
放射線医学(放射線診断科)			Q		G		R		M		D		H		P		K		F	
放射線腫瘍学(放射線治療科)				Q		G		R		M		D		H		P		K		F
皮膚科学		T	R		M				H		P		F			G		J		A
総合周産期母子医療センター		G	E		L		D		O		B			K		F	T			J
救急災害医学(救命救急センター)		C		S		N				I		U	Q		G		R		M	
地域医療学(地域医療教育支援センター)		I	S		N			C			U			Q				R		M
歯科口腔外科学																				
内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学			T	U	A	Q	O	G	E	R	J	M	B	D	L	H	S	P	N	K
小児外科学																				
形成外科学			U	T	Q	A	G	O	R	E	M	J	D	B	H	L	P	S	K	N
臨床腫瘍学(がんセンター)		Q		R		M	C	D	I	H		P	K		F		J	T	A	

※毎月曜日の午後は、講義(漢方医学・医療管理学・診断学、CPC、児童精神医学)を実施する。

※4月15日(月)に定期健康診断を実施する(予定)。

※12月9日(月)は、総合試験(医学実習I)を実施する。

科目	週	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
	期間	6/3 5/7	6/10 5/14	6/17 5/21	6/24 5/28	7/1 5/5	7/8 5/12	7/15 5/19	7/22 5/26	8/19 8/23	8/26 8/30	9/2 9/6	9/9 9/13	9/16 9/20	9/23 9/27	9/30 10/4	10/7 10/11	10/14 10/18	10/21 10/25	10/28 11/1	11/4 11/8	11/11 11/15	11/18 11/22	11/25 11/29	12/2 12/6
内科学(血液・免疫・呼吸器内科学)	I		U		Q		G		R		M		D		H		P		K		F		T		
内科学(循環器・腎臓・脳卒中内科学)	R		M		D		H		P		K		F		T		A		O		E		J		
内科学(消化器・神経内科学)			K		F		T		A		O		E		J		B		L		S		N		
小児科学	J		B		L				N		C		I		U		Q		G		R		M		
周産期学婦人科学	Q		G		R		M		D		H		P		K		F		T		A		O		
精神神経医学	N		C		I		U		Q		G		R		M		D		H		P		K		
外科学(心臓血管外科学)	A		O		E		J		B		L		S				C		I		U		Q		
外科学(消化器外科学)	B		L		S		N		C		I		U		Q		G		R		M		D		
外科学(呼吸器・乳腺内分泌外科学)	K		F		T				O		E		J		B		L		S		N		C		
整形外科	G				M		D		H		P		K		F		T		A		O		E		
泌尿器外科学	S		N		C		I				Q		G		R		M		D		H		P		
脳神経外科学	M		D		J		P		K		F		T		A		O		E					B	
眼科学	E		J		B		L		S		N		C		I		U		Q		G		R		
耳鼻咽喉科学	H		P				F		T		A		O		E		J		B		L		S		
麻酔科学	U		Q		G		R				D		H		P		K		F		T		A		
総合診療医学	L		S		N		C		I		U		Q		G		R		M		J		H		
放射線医学(放射線診断科)	T		A		O		E		J		B		L		S		N		C		I		U		
放射線腫瘍学(放射線治療科)		T		A		O		E		J		B		L		S		N		C		I		U	
皮膚科学		O		E		K	B		L		S		N		C		I		U		Q		D		
総合周産期母子医療センター		P		R		H		A		M		S		N		C		I		U		Q			
救急災害医学(救命救急センター)	D		H		P		K		F		T		A		O		E		J		B		L		
地域医療学(地域医療教育支援センター)		D		H		P		K		F		T		A		O		E		J		B		G	L
歯科口腔外科学				T	A	U	O	Q	E	G	J	R	B	M	L	D	S	H	N	P	C	K	I	F	
内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	C	F	I																						
小児外科学			T		U	A	Q	O	G	E	R	J	M	B	D	L	H	S	P	N	K	C	F	I	
形成外科学	F	C		I																					
臨床腫瘍学(がんセンター)	O		E					S	B	U	L					N									G

2 医学実習 I グループ別配置表

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
期間																					
グループ	1/4 1/5	1/8 1/12	1/15 1/19	1/22 1/26	1/29 2/2	2/5 2/9	2/12 2/16	2/19 2/23	2/26 3/1	3/4 3/8	3/11 3/15	3/18 3/22	4/1 4/5	4/8 4/12	4/15 4/19	4/22 4/26	5/6 5/10	5/13 5/17	5/20 5/24	5/27 5/31	
A	呼吸外		血内		臨検	形成	精神		泌尿		総診		消外		小児		眼科		腫瘍	皮膚	
B	血内		循内		整形		周産		麻酔		母子	臨検	形成	精神		泌尿		総診			
C	救急	消内		耳鼻		腫瘍	地域	脳外		循内		整形		周産		麻酔		血内			
D	総診		小児		眼科		母子	腫瘍	心外		放医	放腫	形成	臨検	呼吸外		消内		耳鼻		
E	周産		母子	麻酔		血内		臨検	形成	精神		泌尿		総診		消外		小児			
F	眼科		精神		泌尿		総診		消外		小児		皮膚	腫瘍	母子	心外		放医	放腫		
G	母子	心外		放医	放腫	形成	臨検	呼吸外		消内		耳鼻		救急	皮膚	脳外		循内			
H	脳外		消外		小児		眼科		皮膚	腫瘍	心外		放医	放腫	形成	臨検	呼吸外		消内		
I	地域	呼吸外		消内		耳鼻		腫瘍	救急	脳外		循内		整形		周産		麻酔			
J	消外		整形		周産		麻酔		血内		臨検	形成	精神		泌尿		腫瘍	皮膚	母子		
K	耳鼻		泌尿		総診		消外		小児		眼科		腫瘍	母子	心外		放医	放腫	形成	臨検	
L	循内		脳外		母子	整形		周産		麻酔		血内		臨検	形成	精神		泌尿			
M	麻酔		眼科		皮膚	腫瘍	心外		放医	放腫	形成	臨検	呼吸外		消内		耳鼻		救急	地域	
N	心外		耳鼻		地域	救急	脳外		循内		整形		周産		麻酔		血内		臨検	形成	
O	精神		麻酔		血内		臨検	形成	母子	泌尿		総診		消外		小児		眼科			
P	消内		総診		消外		小児		眼科		皮膚	腫瘍	心外		放医	放腫	形成	臨検	呼吸外		
Q	腫瘍	放医	放腫	形成	臨検	呼吸外		消内		耳鼻		救急	地域	脳外		循内		整形			
R	整形		皮膚	腫瘍	心外		放医	放腫	形成	臨検	呼吸外		消内		耳鼻		救急	地域	脳外		
S	小児		地域	救急	脳外		循内		整形		周産		麻酔		血内		臨検	形成	精神		
T	皮膚	臨検	形成	精神		泌尿		総診		消外		小児		眼科		母子	腫瘍	心外			
U	泌尿		形成	臨検	呼吸外		消内		耳鼻		地域	救急	脳外		循内		整形		周産		

※血内…内科学（血液） ※循内…内科学（循環器） ※消内…内科学（消化器）
 ※放医…放射線医学（放射線診断科） ※放腫…放射線腫瘍学（放射線治療科）
 ※毎月曜日の午後は、講義（漢方医学・医療管理学・診断学、CPC、児童精神医学）を実施する。

週 期間 グループ	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	
	$\frac{6}{3}$ S	$\frac{6}{10}$ S	$\frac{6}{17}$ S	$\frac{6}{24}$ S	$\frac{7}{1}$ S	$\frac{7}{8}$ S	$\frac{7}{15}$ S	$\frac{7}{22}$ S	$\frac{8}{19}$ S	$\frac{8}{26}$ S	$\frac{9}{2}$ S	$\frac{9}{9}$ S	$\frac{9}{16}$ S	$\frac{9}{23}$ S	$\frac{9}{30}$ S	$\frac{10}{7}$ S	$\frac{10}{14}$ S	$\frac{10}{21}$ S	$\frac{10}{28}$ S	$\frac{11}{4}$ S	$\frac{11}{11}$ S	$\frac{11}{18}$ S	$\frac{11}{25}$ S	$\frac{12}{2}$ S	
	$\frac{6}{7}$	$\frac{6}{14}$	$\frac{6}{21}$	$\frac{6}{28}$	$\frac{7}{5}$	$\frac{7}{12}$	$\frac{7}{19}$	$\frac{7}{26}$	$\frac{8}{23}$	$\frac{8}{30}$	$\frac{9}{6}$	$\frac{9}{13}$	$\frac{9}{20}$	$\frac{9}{27}$	$\frac{10}{4}$	$\frac{10}{11}$	$\frac{10}{18}$	$\frac{10}{25}$	$\frac{11}{1}$	$\frac{11}{8}$	$\frac{11}{15}$	$\frac{11}{22}$	$\frac{11}{29}$	$\frac{12}{6}$	
A	心外		放医	放腫	歯科	小外	母子		消内		耳鼻		救急	地域	脳外		循内		整形		周産		麻酔		
B	消外		小児		眼科		皮膚	腫瘍	心外		放医	放腫	歯科	小外	呼外		消内		耳鼻		救急	地域	脳外		
C	臨検	形成	精神		泌尿		総診		消外		小児		眼科	皮膚	母子	心外		放医	放腫	歯科	小外	呼外			
D	救急	地域	脳外		循内		整形		周産		麻酔		血内		小外	歯科	精神		泌尿		皮膚		消外		
E	眼科		腫瘍	皮膚	心外		放医	放腫	歯科	小外	呼外		消内		耳鼻		救急	地域	脳外		循内		整形		
F	形成	臨検	呼外		消内		耳鼻		救急	地域	脳外		循内		整形		周産		麻酔		血内		小外	歯科	
G	整形		周産		麻酔		血内		小外	歯科	精神		泌尿		総診		消外		小児		眼科	地域	腫瘍		
H	耳鼻		救急	地域	母子		循内		整形		周産		麻酔		血内		小外	歯科	精神		泌尿		総診		
I	血内		臨検	形成	精神		泌尿		総診		消外		小児		眼科	皮膚	母子	心外		放腫	放医	歯科	小外		
J	小児		眼科		脳外		心外		放医	放腫	歯科	小外	呼外		消内		耳鼻		救急	地域	総診		循内		
K	呼外		消内		皮膚		救急	地域	脳外		循内		整形		周産		麻酔		血内		小外	歯科	精神		
L	総診		消外		小児		眼科	皮膚	腫瘍	心外		放医	放腫	歯科	小外	呼外		消内		耳鼻		救急	地域		
M	脳外		循内		整形		周産		母子		血内		小外	歯科	精神		泌尿		総診		消外		小児		
N	精神		泌尿		総診		消外		小児		眼科	皮膚	母子	腫瘍	放医		放腫	歯科	小外	呼外		消内			
O	腫瘍	皮膚	心外		放医	放腫	歯科	小外	呼外		消内		耳鼻		救急	地域	脳外		循内		整形		周産		
P	母子		耳鼻		救急	地域	脳外		循内		整形		周産		麻酔		血内		小外	歯科	精神		泌尿		
Q	周産		麻酔		血内		小外	歯科	精神		泌尿		総診		消外		小児		眼科	皮膚	母子	心外			
R	循内		母子		周産		麻酔		血内		小外	歯科	精神		泌尿		総診		消外		小児		眼科		
S	泌尿		総診		消外		腫瘍	眼科		皮膚	母子	心外		放医	放腫	歯科	小外	呼外		消内		耳鼻			
T	放医	放腫	小外	歯科	呼外		消内		耳鼻		救急	地域	脳外		循内		整形		周産		麻酔		血内		
U	麻酔		血内		小外	歯科	精神		腫瘍	総診		消外		小児		眼科	皮膚	母子	心外		放医	放腫			

Ⅲ 臨床実習上の注意事項

以下に基本的注意事項を列記するが、細かい点については、すべて教員の指示に従うとともに、不明の点については、常に指示を受けるように心掛けること。

1 集合時間・集合場所

集合時間及び場所は、前もって確認しておき、定刻集合を厳守すること。

2 服装等

臨床実習の服装等は、以下に従い実習にふさわしい身だしなみをする。

1. 服 装：清潔な白衣を着用し、所定の名札をつけること。
白衣の下は端正な服装とすること。
ジーンズの着用は避けること。
スカート丈は膝が隠れる長さとする事。
靴は靴底の音の出にくいものとする事。(サンダルは禁止。)
華美なアクセサリは控えること。
2. 頭 髪：髪の毛は清潔にし、極力毛染めはしないこと。
目立たない程度の茶髪は容認するが、指導医が判断して不適當となった場合は実習中止とする。
長い髪は束ねること。
整髪料は臭わないものを使用すること。
3. 化 粧：化粧は控えめにすること。
マニキュアも派手なものは控えること。
香水の使用は控えること。
4. その他：手術部においては、備付けのスリッパ、手術衣を着用すること。
(他のものを使用しないこと。)

3 診療区域内での行動

- (1) 診療区域内・スタッフステーションへの立入りは、原則として実習時間中に限ること。
時間外は教員と共に行動する場合に限り、許可される。
- (2) 指定患者との接触、又は診察などは、すべて教員の指示、又は許可によって行うこと。

- (3) 教員には積極的に質問し、自らの考えを述べて、判断を仰ぐよう心掛けること。
- (4) 患者、看護師その他医療従事者に直接医療上の指示を与えてはならない。
- (5) 病院内は全館禁煙。
- (6) 診療実習中の飲食、私語、騒音は厳に慎むこと。
- (7) 病院内では指導教員の指示がある時以外は原則階段で移動すること。
- (8) スマートフォン、携帯電話等は、携帯しないこと。実習中にスマートフォン、携帯電話等の使用があった場合は、即刻実習を中止とする。
- (9) 病院内で Wi-Fi ルーター（テザリング機能、ポケット Wi-Fi 等）は使用しないこと。
- (10) 学生仮眠室は、教員の指定する時間以外は使用しないこと。また、使用時には、清潔並びに整理整頓に心掛けること。

4 秘密保持

患者の医療上の秘密、医療担当者の職務上の秘密保持には特に留意すること。

例えば、がん患者の診断などについて不用意な発言などは、厳に慎むこと。日本語の「がん」という言葉は絶対に用いないこと。患者から病名、病状等について質問された場合は「主治医の先生に聞いてください」と答えること。

個人情報保護の観点から、患者個人情報インターネットへの漏洩など、十分なセキュリティ意識を学生自身が徹底して実践すること。

5 診療録、医療用器具等の取扱い

診療録等の書類、診療用機械器具、薬品などは所定の場所から持出してはならない。これらの閲覧、使用等はすべて、教員の指示、許可によって行うこと。使用した場合は必ず所定の位置へ返却すること。

電子カルテに限らず、既存のカルテについても、コピー、データの外部出力及び印刷機能（パソコン画面のハードコピー）は禁止する。

電子カルテ閲覧に係る事項を遵守し、誓約書を提出すること。

6 所持品

聴診器、ノート、筆記用具、その他各科において学生が所持するよう指示された物品などは常に用意しておくこと。

7 感染症対策

新型コロナウイルス、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎について感染対策（抗体検査及び予防接種など）を完了しておくこと。麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎は、感染対策の完了が保健管理センターにおいて確認できないと、実習が制限される。入学時の各疾患に対する抗体検査結果が陰性ないし疑陽性であった場合、予防ワクチン接種は実習を受けるための要件となるため、特段の事情がない限り、必ず受けておくこと。また、特段の事情がある場合は保健管理センター医学部分室に相談のこと。

感染症（インフルエンザ等）を疑う症状がある場合は、当該指導教員に相談し、指示を仰ぐこと。感染症（インフルエンザ等）に罹患した場合は速やかに学務課学生係に電話連絡すること。その際、罹患者と同一実習班の学生は、当該実習科の指導教員の指示を仰ぐこと。院内感染防止のために、流行期前にインフルエンザワクチンを接種することが望ましい。

3年次にHBs抗原抗体検査を受け、B型肝炎ワクチン接種が必要と判断された場合は、4年次に3回のワクチン接種を受けることが望ましい。さらに、ワクチン接種後には、効果を確認するためHBs抗体検査を受けることが望ましい。

8 学務課からの連絡

実習期間中の学生への連絡は、学務課公用掲示板によって行うので見落としのないよう注意すること。

9 振替実習について

振替実習の取り扱いについては、次頁のとおりとする。

10 その他

各科ごとに定められた注意事項及び指導教員の指示を守り、実習実施要項にそって実習を行うこと。

香川大学医学部医学科臨床実習に係る振替実習取扱い申合せ

平成 29 年 9 月 6 日

医学部学務委員会

香川大学医学部医学科の臨床実習（医学実習Ⅰ及び医学実習Ⅱ）における振替実習の取扱いについて、次のとおり申し合わせる。

（準公欠に該当する場合の取扱い）

第 1 香川大学医学部開設科目に係る欠席取扱い申合せ第 5 の準公欠に該当する事由により臨床実習を欠席した場合の振替実習の取扱いについては次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 原則として欠席した日数の 3 分の 2 以上の振替実習を課するものとする。
- (2) 前項の日数が 1 日に満たない場合は授業担当教員が当該実習に相当する学習を課するものとする。
- (3) 振替実習は、原則として直近の休業期間中に完了することを合格（単位認定）の要件とする。

（その他）

第 2 その他この申合せにより処理し難い事例が生じた場合は、医学部学務委員会の議により学務委員長が判断し措置する。

附 則

この申合せは、平成 30 年 1 月 1 日から施行する。

附属病院における実習中の学生の針刺し等 汚染事故発生時の対応について

- ① 針刺事故用検査、その後の診療までの対応は、当該学生の実習を担当している指導教員が責任をもって行う。
- ② 学生教育研究災害傷害保険（学研災）の手続きは、学務課学生係が担当する。

針刺し等汚染事故発生時のフローチャート



速やかに指導教員に報告！

学生

- 皮膚の切創、粘膜汚染→石けんと流水で丁寧に洗う
- 目に曝露→コンタクトレンズを外し、水道水で洗い流す、擦らない
- 口腔→十分な含嗽を行う

指導教員は病院感染予防マニュアルに基づき迅速に以下の措置をとる

指導教員

- 感染対策室（3058）に連絡
- 汚染源患者の3ヶ月以内のHCV抗体、HBs抗原、HIV抗体を確認
- 医事課診療報酬係（3023, 3011）に連絡し、検査部へ受付を依頼
- 3ヶ月内の検査結果がない場合→患者の同意を得て「針刺事故用検査伝票」で検査実施
- 受傷者はただちに「針刺事故用検査伝票」で検査実施
- 検体と「針刺事故用検査伝票」を検査部に提出（時間内 3676、時間外 5880）
- 指導教員は汚染源患者の感染症検査結果を確認、検査結果に応じた対応を行う
 - HBs抗原（+）またはHCV抗体（+）：消化器内科受診
 - HIV抗体（+）：HIV診療担当医師受診

学生

受診・処置後、医事課の支払い（保険診療）を終え、学務課学生係に報告

学務課学生係（2061）に事故報告書を提出。学生教育研究災害傷害保険（学研災）の手続きについて説明をうける。

スチューデント・ドクターとしての誓約書

香川大学医学部長 殿

香川大学医学部附属病院長 殿

私は臨床実習医学生(スチューデント・ドクター)として診療参加型臨床実習(以下、実習)において実際に医療チームに参加し、医師に必要とされる知識、技術、態度を学ぶため誠心誠意努力することを誓います。

スチューデント・ドクターとしての責任や守るべき規範など、以下の内容について十分に理解し、同意致しましたので署名いたします。これに違反した場合には、学則による懲戒を受ける場合があることを承知しました。

1. 私は、スチューデント・ドクターが医師に準ずると社会的に看做されることを理解し、実習において医師の行動規範に準じた態度をとり行動します。また、教育関連病院での実習はもちろんのこと、課外の日常生活においても、社会倫理に即して香川大学医学部の名誉や信用を損なわないよう行動します。
2. 「臨床実習実施要項」に則り「臨床実習上の注意事項」を遵守して実習を行います。実習の内容は、病院の診療上の必要性や現実的制約によって、妥当な範囲で変更することがあることを承知しました。
3. スチューデント・ドクターとして行う医行為は、決して自己判断で行わず、必ず指導医の指導、監督の下に行います。
4. 担当する患者にはスチューデント・ドクターであることを告げ、指導医とともに実習することについて患者の同意を得ます。

令和 年 月 日

香川大学医学部医学科

学籍番号: _____ 氏名: (自署) _____

IV 各科實習要綱

内科学（血液・免疫・呼吸器内科学）

1 集合時刻

午前9時00分（火曜日を除く）

午前8時30分（火曜日）

2 集合場所

第1週月曜日 研究棟4階医局

第1週火曜日 午前8時30分、研究棟4階A会議室

以降については実習初日のオリエンテーションの際に説明する。

3 具体的な目標

・一般目標（GIO）

病棟実習においては担当患者とよくコミュニケーションをとり、患者の訴えやその背景から疾病のみならず全人的な医療が行えるようになる。また臨床症状や検査結果よりの確な診断と効果的な治療内容が構築できるようになる。

また症例について簡潔明瞭なレポートを作成し、加えて論文や文献より最新の情報を入手し症例についてより多くの知識を習得することができるようになる。

・行動目標（SBOs）

基本的な診察技術を習得する。

診断に至るまでに必要な思考や検査について学ぶ。

担当症例の患者とよく接する。（実習期間は毎日接することが望ましい、また検査も可能な限り見学する。）

講義に関しては事前に予習をしておき、講義終了時に疑問を感じたなら質問を行い疑問を残さないようにする。

レポート作成術を習得する。

4 実習内容

学生各2～3名に対し担当患者1例を割り当てる。症例に関するレポートを実習最終日に評価する。講義は別紙スケジュール表に示すように行う。

5 EBM活用方針

レポート作成時には考察の根拠となった論文やガイドライン等を明示する。

6 評価方法

出席状況、実習の態度、担当症例のレポート内容を総合評価する。

7 実習上の注意

- ・ 集合時刻は厳守すること。また何らかの事情で出席できない場合は必ず医局ないし学務課教務係に連絡を入れること。
- ・ 入院患者と接する際には医師としてふさわしい服装で臨むこと。特に清潔さに関しては十分に配慮すること。
- ・ 受け持ち患者の診察および検査等に臨む際は主治医と連絡を密にしておくこと。
- ・ 実習の際には内科学の教科書、参考書、聴診器を持参することが望ましい。
- ・ スクラブ可

8 医学実習 I にて経験できる医行為

- ・ 診療記録記載（診療録作成）

臨床実習時間割

前半

内科学（血液・免疫・呼吸器内科学）

曜日	午	前	午	後	
第1週	月	9:00 症例紹介 〈研究棟4階医局〉		13:30 病棟実習など 〈南6階・南7階病棟〉	
	火	8:30 モーニング カンファレンス 〈研究棟4階A会議室〉	カンファレンス終了後～11:00 呼吸器内科 症例カンファレンス 〈南6階病棟カンファレンス室〉	13:00 15:00 呼吸器内科 気管支鏡検査見学 〈内視鏡室〉	
	水	9:00 10:00 膠原病内科講義 患者さんとのコミュニケーション 〈研究棟2階カンファレンスルーム209号〉	10:30 11:30 膠原病内科講義 膠原病と妊娠 〈研究棟2階カンファレンスルーム209号〉	13:30 病棟実習など 〈南6階・南7階病棟〉	16:30 血液内科 症例カンファレンス 〈南7階カンファレンス室〉
	木	9:00 病棟実習など 〈南6階・南7階病棟〉		13:30 病棟実習など 〈南6階・南7階病棟〉	
	金	9:00 10:30 血液内科講義 〈研究棟4階A会議室〉	10:30 病棟実習など 〈南6階・南7階病棟〉	15:00 症例報告チェック1回目 〈南6階・南7階病棟〉	

後半

※病棟実習の場合、場所は〈南6階・南7階病棟〉とする。

曜日	午	前	午	後		
第2週	月	9:00 病棟実習など 〈南6階・南7階病棟〉		13:30 病棟実習など 〈南6階・南7階病棟〉		
	火	8:30 モーニング カンファレンス 〈研究棟4階A会議室〉	膠原病・リウマチ内科 症例カンファレンス 〈研究棟4階A会議室〉	11:00 膠原病・リウマチ内科 関節所見のプラクティス 〈研究棟4階A会議室〉	13:30 血液内科講義 造血幹細胞移植 〈南7階病棟〉	14:00 16:00 呼吸器内科 呼吸器疾患の身体所見の 取り方と胸部レントゲン 〈スキルスラボ2階カンファ室〉
	水	9:00 病棟実習など 〈南6階・南7階病棟〉		13:30 病棟実習など 〈南6階・南7階病棟〉		
	木	9:15 10:45 血液内科講義 症例から考える 〈スキルスラボ2階カンファ室〉	病棟実習など 〈南6階・南7階病棟〉		13:30 病棟実習など 〈南6階・南7階病棟〉	15:00 16:00 呼吸器内科講義 肺炎 〈研究棟2階カンファレンスルーム209号〉
	金	9:00 膠原病内科講義 膠原病概論 〈研究棟4階A会議室〉	10:00 病棟実習など 〈南6階・南7階病棟〉		13:30 15:00 レポートチェック 〈研究棟4階A会議室〉	

内科学（循環器・腎臓・脳卒中内科学）

1 集合時刻

初日は午前9時、2日目以降は次頁時間割に示す。

2 集合場所

初日は南病棟3階心臓血管センターカンファレンスルーム。

3 具体的な目標

・一般目標（GIO）

優れた医師となるために、循環器、腎臓、脳血管を中心とした医学的知識をテーマ実習を通して活用可能なレベルに向上させるとともに、循環器、腎臓領域の代表的疾患患者の診療チームに加わることにより、同疾患の診療に必要な総合的知識、基本的臨床技能および態度を身につけることを目標とする。

・行動目標（SBOs）

- 1) 循環器、高血圧、腎臓領域を中心とした医療面接、身体診察ができる。
- 2) 循環器、腎臓領域の代表的疾患患者の入院診療担当チームに加わり、診療に積極的に参加し（クリニカルクラクシップ）、その活動を記録する。
- 3) 心電図の基本的な解釈ができる。
- 4) 心臓超音波検査の基本断面が描出できる。
- 5) 代表的疾患の心臓超音波画像の解釈ができる。
- 6) 心臓カテーテル検査、血管内治療、カテーテル不整脈治療について概説できる。
- 7) 冠動脈造影の基本的な解釈ができる。
- 8) 冠動脈形成術について概説できる。
- 9) 心臓核医学検査の概要を説明できる。
- 10) 代表的疾患の心臓核医学画像が解釈できる。
- 11) 頸動脈超音波検査の基本断面が描出できる。
- 12) 代表的疾患の頸動脈超音波画像の解釈ができる。
- 13) 検尿一般を実施、尿沈渣標本を作成し、解釈できる。
- 14) 血液浄化療法について概説できる。
- 15) 血液透析シャント造設術・形成術を概説できる。
- 16) 血液透析回路が組める。
- 17) 腎臓生検の概要を説明できる。
- 18) 代表的疾患の腎臓病理組織を解釈できる。

4 実習内容

臨床実習前カリキュラム等を通して修得した医学的知識・技能・態度を、現実の患者・臨床データに接することにより活用可能なレベルに高めるためにクリニカルクラークシップとレクチャー・見学方式を併用する。すなわち、循環器・腎臓疾患について、担当チームの一員として診療に参加する一方、これと平行して、脳血管疾患も加えた関連領域において重要な課題について、レクチャー・見学・読影実習などによっても学習する。具体的には次の3つの要素からなり、概ね次頁の時間割に従うが、詳細は初日のオリエンテーション時に指示する。ただし、実習内容については、社会的情勢により変更になる可能性がある。

- ① 病棟実習：各週の最初にグループに2名ずつ入院患者を割り当てる。医療面接を（クリニカルクラークシップ）中心とした患者とのコミュニケーション・身体所見の収集と、これらに基づく診断計画の作成、諸検査所見・画像診断の解釈、さらに、これらに基づく治療計画、そして、その効果の評価の診療プロセスの各段階において、担当医・指導医・看護師とのディスカッションの中で意見を述べ、フィードバックを受ける。この過程を具体的に盛り込んで報告書としてまとめ、各週の金曜日の症例発表・討論の資料として準備する（グループ人数分と担当教員の分をコピーする）。討論後、症例毎に一部を連名で提出する。
- ② テーマ実習：9個のテーマ実習を別項の臨床実習時間割のとおり予定している。循環器疾患、腎疾患、脳血管疾患の病態・診断法・治療法等について、担当教員による専門回診・手技見学・スキルスラボ実習・レクチャー・討論等を通して、SBOsの3)～18)を達成するため自主的に学習する。
- ③ 外来実習：実際の外来診療に同席し、患者の医療面接、身体診療を学ぶ。

5 EBM活用方針

症例発表においては必ずEBMを提示しながら診断、治療等を考察する。

6 評価方法

SBOsのうち、1)、2)はレポートの作成と、それに基づく発表会における総合討論を担当する指導医等が修了判定する。3)～18)については、対応するテーマ実習を担当する指導医がそれぞれ修了判定する。1)、2)は必須、3)～18)についても全ての修了判定を受けることが望ましいが、修了判定16／18項目以上を持って総合評価をとする。

7 実習上の注意

- ① 集合時間の厳守。
- ② 医学生として良識ある服装と言動を心がけること。
- ③ カルテなどの資料は無断でナースセンターから持ち出さないこと。
- ④ 電子カルテ等からのプリントアウトは病棟ナースステーションに設置されたシュレッターにより処理すること。
- ⑤ 病棟担当症例については、担当チームメンバーと積極的に討論すること。
- ⑥ カルテなどから得た情報は守秘すること。ネットに接続されたパソコンでは個人情報を含む文書を作成しないなど、個人情報保護には特に細心の注意を払うこと。
- ⑦ 次頁時間割のA週B週の順序については、逆転する場合がある。

8 医学実習 I にて経験できる医行為

- 医療面接
- バイタルサインチェック
- 診察法（全身・各臓器）
- 超音波検査（心血管）
- 心電図検査

臨床実習時間割

内科学（循環器・腎臓・脳卒中内科学）

曜日	午 前		午 後		
	A 週	月	9:00 オリエンテーション 受け持ち患者紹介 心臓 C C R	9:30 テーマ実習① 心臓超音波検査 スキルスラボ3階	
火		8:30 腎臓内科 手術見学 手術室		第1・3火曜 14:00	第2・4火曜 14:00
				テーマ実習② 身体所見 心臓 C C R	テーマ実習③ 頸動脈超音波検査 西3階 C R
水		8:00 腎透析カンファレンス 西3階	9:30 テーマ実習④ 腎疾患治療の実際（Ⅰ） 血液浄化療法室	14:00～17:00 テーマ実習⑤ カテーテル検査見学 放射線部 血管造影室	
木		9:00 循環器病棟回診 南3階病棟		13:30 テーマ実習⑥ 心電図 スキルスラボ2階 模擬診察室1	
金	9:00 症例発表・討論（Ⅰ） 西3階 C R		14:00 症例発表・討論（Ⅱ） 西3階 C R		

曜日	午 前		午 後		
	B 週	月	9:00 受け持ち患者紹介 心臓 C C R	9:30 テーマ実習⑦ 身体診察	
火		8:30 テーマ実習⑥ 心臓カテーテル検査/シミュレータ実習 スキルスラボ3階		第1・3火曜 14:00	第2・4火曜 14:00
				テーマ実習② 身体所見 心臓 C C R	テーマ実習③ 頸動脈超音波検査 西3階 C R
水		8:00 腎透析カンファレンス 西3階	9:30 テーマ実習⑧ 腎疾患治療の実際（Ⅱ） 血液浄化療法室	14:00 Webclassにて自習	
木		9:00 腎臓内科病棟回診 東3階病棟		13:30 テーマ実習⑨ 心電図 心臓 C C R	
金	9:00 症例発表・討論（Ⅲ） 西3階 C R		15:30 症例発表・討論（Ⅳ）/アンケート 西3階 C R		

心臓 C C R：心臓センターカンファレンスルーム（南病棟3階）

内科学（消化器・神経内科学）

1 集合時刻・集合場所

第1週月曜日 午前9時 消化器・神経内科医局に集合。

第1週月曜日が祝日の場合は、第1週目火曜日 午前9時 消化器・神経内科医局に集合。

以降、詳細についてはオリエンテーションで説明する。

2 具体的な目標

- ・ 一般目標

エビデンスに即した診療を行う。

- ・ 行動目標

割り当てられた患者に対して、主治医と連携しチーム医療の一員として診療を行う。

神経学的所見を元に病巣診断ができる。

3 実習内容

学生1人につき入院患者2名（消化器内科・脳神経内科）を2週間受け持って、症例検討を行う。

消化器内科については、あらかじめ指定された症例を第2週木曜日に口頭でのプレゼンテーションを行う。診察・診断の進め方・発表方法等は、主治医の指示に従う。

脳神経内科については、受け持ち患者の病歴聴取、神経診察を行い、鑑別診断を考え、必要な検査計画をたてる。

その他に、検査の見学や消化器病学及び脳神経内科学についての講義を行う。

病棟受け持ち患者のレポートは、第2週金曜日17時までに消化器・神経内科学医局事務に提出する。

4 EBM活用方針

症例発表においては、患者背景と、EBMに基づいた診療・治療についてプレゼンテーションする。

レポート作成時は、考察の根拠となる論文、ガイドラインを明示し、系統的にレビューする。

5 評価方法

実習の出席 レポートによる評価

6 実習上の注意

社会人として実臨床で研修を行うため、無断欠席を禁ずる。
感染症、学会の都合により、時間割の変更等もありますので、
その際はオリエンテーションでご説明いたします。

7 医学実習 I にて経験できる医行為

- 診療記録記載（診療録作成） • 医療面接 • バイタルサインチェック • 直腸診察
- 高齢者の診察（ADL 評価、高齢者総合機能評価） • 皮膚消毒 • 外用薬の貼付・塗布
- ネブライザー • 静脈採血 • 末梢静脈確保 • 胃管挿入
- 注射（皮下・皮内・筋肉・静脈内） • 尿検査 • 超音波検査（腹部） • 一次救命処置
- 気道確保 • 処方薬（内服薬、注射、点滴等）のオーダー • 食事指示 • 安静度指示
- 定型的な術前・術後管理の指示

臨床実習時間割

前半 () : 集合場所

内科学 (消化器・神経内科学)

曜日	午		前		午		後	
	月	9:00 脳神経内科回診 (南4F病棟)	10:00 筋電図の実際 (中検脳波・筋電図室)	受け持ち患者 割当		講義・実習		
火	9:00 資料配布・説明 (医局)	9:30 オリエンテーション 腹部超音波検査の実際 (内科外来エコー室)			15:00 消化器内科講義(胆膵) (放射線部TV室 or 内視鏡診療部)	16:00 神経学的所見の 取り方 (スキルスラボ2F)		
水	9:15 【Aチーム】 外来診察の実際 (正木教授診察) (内科外来)				14:00 受け持ち患者診察 (南病棟4F) ※医師とのディスカ ッションを含む		16:30 カンファレンス (南病棟4F)	
	9:00 【Bチーム】 外来診察の実際 (出口先生診察) (内科外来)							
木	8:00 入院患者紹介 (研究棟4FA会議室)	9:00 教授回診 (東5F) 教授回診終了後、医局			13:30 肝臓治療の実際及び 受け持ち患者の診断 (病棟1F放射線科血管撮影室)	15:00 ボツリヌス毒素治療 (内科外来受付)	16:00 内視鏡治療の実際 (スキルスラボ3F)	
金	10:00 内視鏡治療の実際 (消化管グループ) (内視鏡診療部)						14:00 受け持ち症例検討 (医局)	16:00 消化器内科講義・肝臓 (西病棟5F消化器内科 カンファレンスルーム)

後半

曜日	午		前		午		後	
	月	9:00 脳神経内科回診 (南4F病棟)	10:00 筋電図の実際 (中検脳波・筋電図室)			講義・実習		
火	9:30 国試問題から学ぶ脳内 (医局)				13:30 大腸内視鏡 の実際 (内視鏡診療部)			
水	9:00 【Aチーム】 外来診察の実際 (出口先生診察) (内科外来)				14:00 受け持ち患者診察 (南病棟4F) ※医師とのディスカ ッションを含む		16:30 カンファレンス (南病棟4F)	
	9:15 【Bチーム】 外来診察の実際 (正木教授診察) (内科外来)							
木	8:00 入院患者紹介 (研究棟4FA会議室)	9:00 教授回診 (東5F) 教授回診終了後、医局	10:30 胆膵治療の実際 (放射線部TV室)			15:00 ボツリヌス 毒素治療 (内科外来受付)	16:00 腰椎穿刺トレーナー (スキルスラボ3F)	
金	ポリクリチェック準備 (スキルスラボ2F)				14:00 脳神経内科講義・ポリ クリチェック症例報告会 (医局)		15:00 消化器内科ポリクリ チェック症例報告 (医局)	

小 児 科 学

1 集 合 時 刻

実習開始日 午前10時

月曜日が休日の場合は火曜日（10:00～）にオリエンテーションを行う。

2 集 合 場 所

小児科医局：研究棟2階

外来実習：外来診療棟2階小児科外来

病棟実習：東2階病棟

3 具 体 的 な 目 標

- ・ 一般目標（GIO）
小児の特徴や頻度の多い疾患および小児の診療に関し学習する。
- ・ 行動目標（SBOs）
 - ・ 外来実習・病棟実習に取り組む。
 - ・ 担当医に担当患者の病態に関し、説明できる。

4 実 習 内 容

初日のオリエンテーション時に講義と実習の詳細時間割について説明する。

病棟実習は、受持ち入院患者の診察、検査等を教員及び主治医の指導のもとに行う。

（毎日1～2回、患者の診察を行うことが望ましい）

回診時、受持ち患者についてのプレゼンテーションを行う（専門用語は英語で）。

5 EBM活用方針

症例検討では症例のまとめを行い、レポート作成時に考察の根拠となった論文やガイドライン等を明示する。

6 評価方法

レポート作成・発表、Mini-CEX を行い、評価する。なお、レポート作成時には考察の根拠となった論文・ガイドライン等を明示する。
病棟回診、講義等の参加に関し評価を行う。

7 実習上の注意

教員の指示を厳守すること。

患者、家族の心情に配慮し、言動に十分注意して実習を行うこと。

カルテ、検査データ等の資料は、教員及び主治医の許可なく病棟外へ持ち出してはならない。個人情報の保護厳守につとめること。病名告知に配慮すること。

8 医学実習 I にて経験できる医行為

- 医療面接
- バイタルサインチェック
- 診察法（全身・各臓器）
- 静脈採血
- 末梢静脈確保
- 注射（皮下・皮内・筋肉・静脈内）

臨床実習時間割

小児科学

	曜日	前		後	
		午	前	午	後
1	月	10:00~ 12:30 オリエンテーション・患者紹介 会議室（スキルスラボ1階）			
	火	9:30 レポート作成 病棟実習 等	11:00 12:00 小児の処置 (小児科外来)	13:30 15:00 准教授回診 (小児科病棟)	15:00 16:30 レポート作成 病棟実習 等
	水	10:00 12:00 講義 (小児科医局)		13:30 16:30 レポート作成 病棟実習 等	
	木	9:30 Mini-CEX 事前学習 模擬診察室 3 (スキルスラボ2階)	11:00 12:30 レポート作成 病棟実習 等	13:30 15:00 模擬ケース 模擬診察室 3 (スキルスラボ2階)	15:00 16:30 レポート作成 病棟実習 主治医とのディスカッション 等
	金	9:00~ 教授回診 (小児科病棟)	10:30 12:30 Mini-CEX 模擬診察室 3 (スキルスラボ2階)	13:30 15:00 小児の腎疾患 (小児科外来)	15:00 16:30 こどものみかた～シミュレーションで学 ぶ見逃せない病気の動画を各自で視聴 病棟実習 等

	曜日	前		後	
		午	前	午	後
2	月	9:30 11:30 レポート指導 会議室（スキルスラボ1階）			
	火	9:30 予防接種動画視聴 確認テスト 各自で実施 病棟実習 等	11:00 12:00 小児の予防接種 (小児科外来)	13:30 15:00 准教授回診 (小児科病棟)	15:00 16:30 こどものみかた～シミュレーションで学 ぶ見逃せない病気の動画を各自で視聴 病棟実習 等
	水	10:00 12:00 講義 (小児科医局)		13:30 16:30 外来見学（予防接種、消化器、神経など） (小児科外来) (病棟実習、主治医とのディスカッション等)	
	木	9:30 乳児健診動画視聴 確認テスト 各自で実施 病棟実習 等	11:00 12:30 健診実習説明 (小児科外来)	13:30 16:30 1ヶ月健診 実習 (小児科外来) 13時～ 各学生午前中に集合時間を決定	
	金	9:00 教授回診 (小児科病棟)	10:30 12:30 レポート発表 (小児科医局)	13:30 16:30 アンケート回答・資料集の返却	

※上記時間割は前年度のものであり、変更の可能性があります。

周産期学婦人科学

1 集合時刻

実習開始初日午前9時（1月4日は午前8時）

2 集合場所

研究棟2F西 周産期学婦人科学 事務室

※集合後に場所を移動する場合がありますので、集合場所へは班全員揃ってお越しいただくようお願いいたします。

3 具体的な目標

・一般目標（GIO）

女性特有の疾患に関し充分理解を深め、患者心理に配慮した接し方があることを理解、認識する。

特に妊娠中の患者は、一般の疾病患者とは違う特殊な環境変化にあり、そのことを認識した接し方を習得する。

・行動目標（SBOs）

1) 外来実習

産婦人科独特の診察法について理解する。診断のために必要な検査の進め方を具体的に説明できる。

2) 病棟実習

ベッドサイドで話を聞き、その症状から対応法などを推察し説明する。

主に悪性疾患における診断法、進行期分類および治療法を具体的に述べる。

婦人科疾患に関する手術式について具体的に説明できる。

正常分娩の経過について具体的に説明できる。また異常分娩についても具体的に列記し、対応、治療法について説明できる。

4 実習内容

- (1) 外来実習 産科婦人科的な診察及び検査の進め方、診断と治療の実際について学ぶ。
- (2) 病棟実習 医療面接ができるようになる。婦人科腫瘍患者や手術患者及びハイリスク妊娠の治療と管理の実際を学ぶ。
分娩見学を通して分娩・産褥及び正常新生児の管理を学習する。
 - ・産科もしくは婦人科の患者を1名受け持ち、経過記録および入院病歴要約を作成する。また最終日に課題について発表する。
 - ・手術見学（特に受け持ち患者の手術には術野への参加すること。）
 - ・受け持ち患者以外の症例においても手洗いして術野へ参加し、外科的手技を習得すること。

5 EBM活用方針

カルテ記載および課題発表においては、必ずEBMを提示しながら診断や治療等を考察し、考察の根拠となった論文、ガイドライン等を明示する。

6 評価方法

実習態度や受け持ち患者に関するカルテ記載内容及びプレゼンテーションにより評価する。

7 実習上の注意

- (1) 手指・頭髮を清潔に保ち、患者さんに不快感を与えないように注意する。
- (2) 衣服や白衣は清潔で見苦しくないものを着用し、男性はワイシャツ、ネクタイを着用すること。(白色ケーシータイプの着用は認めるが、原則大学名入りの白衣を着用すること)。
- (3) 産科婦人科は生殖に関する領域を扱うため、実習中の言動には特に注意し、実習外でもプライバシーを厳守する。
- (4) 実習予定は、手術や分娩など臨床上の事象等にて変更があり得るので、各指導教員に細かく確認すること。
- (5) 実習態度が甚だ不真面目な場合には、最終日の総括への参加が認められない。
- (6) その他、不明な点や疑問点があれば、適宜各教員に質問し指示を仰ぐこと。
- (7) 実習中は筆記用具、教科書や参考書等を常に携帯すること。
- (8) 特別な感染症対策が必要な状況下においては、実習内容を変更することがある。

8 医学実習 I にて経験できる医行為

- 診療記録記載 (診療録作成) • 医療面接 • 清潔操作 • 手指消毒 (手術前の手洗い)
- ガウンテクニック • 皮膚縫合 • 消毒・ガーゼ交換 • 手術助手 • 妊娠反応検査

臨床実習時間割

周産期学婦人科学

曜日	午	前	午	後	
第 1 週	月	9:00 オリエンテーション 患者情報収集		/	
	火	8:00 手術			
		9:00 病棟実習／分娩待機			
	水	9:00 外来2～3名 (R260)			
		病棟実習／分娩待機			
木	8:00 手術				
	9:00 病棟実習／分娩待機				
金	8:15 抄読会	教授回診	10:00 外来 (R265)	Krusus／病棟実習／分娩待機	

曜日	午	前	午	後	
第 2 週	月	9:00 外来 (R265)		/	
	火	病棟実習			
		8:00 手術			
	水	9:00 病棟実習／分娩待機			
		9:00 外来2～3名 (R260)			
木	8:00 手術				
	9:00 病棟実習／分娩待機				
金	8:15 抄読会	教授回診	10:00 外来 (R265)	14:00 総括 (金西教授@母子科資料室)	

開始時間については適宜確認をする様にして下さい。

精神神経医学

1 集合時刻

実習第1日目、午前9時30分

以後については、オリエンテーションの際説明する。

2 集合場所

実習第1日目、精神科医局

以後については、オリエンテーションの際説明する。

3 具体的な目標

- ・一般目標（GIO）
各精神疾患について知る
治療法について知る
患者とのコミュニケーションのとり方を習得する
- ・行動目標（SBOs）
患者に共感して交流する
患者の概要についての的確に説明する

4 実習内容

- (1) 病棟では学生1名で1人の患者を受け持ち、指導のもと実習し、レポートする。
 - (2) 外来では指導のもと予診や陪診を行う。
 - (3) 程々の知識及び技術を講義によって習得する。
- (1)~(3)は感染症の流行状況や感染対策のため変更になりうる。

5 EBM活用方法

レポート作成時は考察の根拠となった論文、ガイドライン等を明示する。

6 評価方法

実習中の態度、出席状況、課題の提出状況、内容により評価する

7 実習上の注意

- (1) 精神症状のとらえ方、脳波・画像の判読
- (2) 治療者・患者関係の成立のさせ方
- (3) 病感、病識の乏しい患者の治療
- (4) 簡易精神療法の仕方
- (5) 向精神薬の使い方
- (6) あらゆる患者を悩める者としてとらえ、共感し問題解決への努力

8 その他

- (1) 患者のプライバシーと人権を尊重
- (2) 清潔で礼節の整った服装。白衣、K Cを着用、スクラブは禁止。

9 医学実習 I にて経験できる医行為

- 診療記録記載（診療録作成）
- 医療面接

臨床実習時間割

精神神経医学

曜日	午 前			午 後		
	月	9:30 オリエン テーション	病棟案内	病棟実習		
第1週	火	病棟実習	講義	13:00 講義	病棟実習	
	水	カンファレンス、回診等		病棟実習	講義	
	木	病棟実習		病棟実習	講義	
	金	病棟実習		病棟実習	講義	

曜日	午 前			午 後		
	月	9:00	病棟実習			
第2週	火	病棟実習		病棟実習	講義	
	水	カンファレンス、回診等		病棟実習	講義	
	木	病棟実習		病棟実習	講義	
	金	病棟実習		病棟実習	総括	

外科学（心臓血管外科学）

1 集合時刻

実習第1日目（月曜日が休日の場合は火曜日）は午前7時30分

2日目以後についてはオリエンテーションの際に説明する。

2 集合場所

実習第1日目は基礎臨床研究棟3階の心臓血管外科教官室1。

2日目以後についてはオリエンテーションの際に説明する。

3 具体的な目標

・一般目標（GIO）

基礎医学として解剖学や生物学で学習した心臓を直接手術しているので、その実際を自らの目で観てほしい。力強く拍動する心臓に対する手術現場で生命の躍動を感じ取ってほしい。

書籍から知識を蓄積することや擬似画像（3Dなどバーチャルリアリティ）による学習は大切であるが、まさしくリアルな現場を前にして、生命に対する畏怖、他人に対する崇敬を心にしてくれればそれ以上望むものはない。

・行動目標（SBOs）

限られた二週間の内で直接担当する症例について、その患者の術前状態を含めて、病態、治療方針決定に至るプロセス、選択された治療方法、そして術後の推移について、資料探索や実際の医療現場の観察から、心臓血管外科手術治療を論理立てて整理し説明できる。

4 実習内容

- | | |
|-----------|--|
| (1) 病棟実習 | 入院患者の診察（外科的診断法と理学的所見）
担当患者の検査、処置、術前術後管理 |
| (2) 手術室実習 | 手術見学・参加 |
| (3) 症例検討 | 担当症例の中から1例を選び、第2週のカンファレンスでプレゼンテーションを行う。 |

5 EBM活用方針

1. 症例発表においてはEBMを提示しながら診断、治療等を考察することが望ましい。
2. レポート作成時には、考察の根拠となった論文、ガイドライン等を明示できるように努力する。

6 評価方法

担当症例についての発表とそれに続く質疑により、心臓血管外科治療の実際を把握して報告することを総合的に評価する。

その発表と質疑を受けて、担当症例についてのレポートを完成させ、提出することが必須。

7 実習上の注意

- (1) 服装と身だしなみに注意し、清潔な白衣と靴を着用すること。
- (2) 患者や家族との対応には、医学生としての良識ある行動をとり、不用意な発言を慎み、とくに診断や病状などの質問に対しては主治医を通じて答えること。
- (3) カルテ、検査データ、検査画像などの資料は、主治医の許可なく外に持ち出さないこと。
- (4) 教科書から離れ、患者から生の医学を学ぶことが実習の目的であることをよく理解し、医師団の一員となった気持で考え、積極的に行動すること。
- (5) 報告書やカルテ内容を単に鵜呑みにするのではなく、もとのデータや画像を自ら読解し判断する態度を身につけること。
- (6) 患者に最高の医療を行うことを常に目指すべきであり、学生といえども同様に、最新の知識を医学文献から得る習慣を身につけること。
- (7) 実習の補則、レポート作成の要領等については、Web classに詳記してあるので、事前に熟読しておくこと。

8 医学実習 I にて経験できる医行為

- 診察法（全身・各臓器）
- 清潔操作
- 手指消毒（手術前の手洗い）
- ガウンテクニック

臨床実習時間割

外科学（心臓血管外科学）

曜日	午 前		午 後		
	月	7:30 オリエンテーション	8:00 手術室実習	13:00	17:00
第1週	火	7:30 病棟症例検討	9:00 病棟実習		
	水	7:30 病棟症例検討	8:00 手術室実習 病棟実習		
	木	7:30 病棟症例検討	9:00 病棟実習		18:00 循環器合同 カンファレンス
	金	7:30 病棟症例検討	8:00 手術室実習 病棟実習		

曜日	午 前		午 後		
	月	7:30 病棟症例検討	8:00 手術室実習	13:00	17:00
第2週	火	7:30 病棟症例検討	9:00 病棟実習		
	水	7:30 病棟症例検討	8:00 手術室実習 病棟実習		
	木	7:30 病棟症例検討	9:00 病棟実習		18:00 循環器合同 カンファレンス
	金	7:30 病棟症例検討	10:00 担当症例発表会	12:00 手術室実習 病棟実習	

外科学（消化器外科学）

1 集合時刻

実習第1日目は午前7時30分

2日目以後についてはオリエンテーションの際に説明する。

2 集合場所

実習第1日目は基礎臨床研究棟2階の消化器外科医局に集合する。

2日目以後についてはオリエンテーションの際に説明する。

3 具体的な目標

・一般目標（GIO）

外科チームの一員として診療に参加し消化器外科患者を担当することにより、その病態を理解し、外科に必要な知識、技能、態度を修得する。

・行動目標（SBOs）

- ・外科手術の適応を判断しリスクの評価ができる。
- ・外科手術を理解し、基本的な手技を修得する。
- ・基本的な術前、術後管理を理解する。

4 実習内容

- | | |
|-----------|---|
| (1) 病棟実習 | 入院患者の診察（外科的診断法と理学的所見）
担当患者の検査、処置、術前術後管理 |
| (2) 手術室実習 | 手指消毒、ガウンテクニック、手術助手（指定された症例）
手術見学
手術標本示説 |
| (3) 症例検討 | 担当症例に関して、カンファレンスまたは回診で
プレゼンテーションを行う。 |

5 EBM活用方針

1. 回診時の症例呈示においてはEBMに基づき患者状態を把握して治療方針を述べる。
2. 英語文献の抄読会に参加して、最新のエビデンスについて学ぶ。

6 評価方法

臨床実習への参加、熱意、態度を評価する。

回診時のプレゼンテーションより、知識、理解度を評価する。

手術時には、基本手技の習得度を評価する。

7 実習上の注意

- (1) 服装と身だしなみに注意し、清潔な白衣と靴を着用すること。爪切りも忘れず、手指を清潔に保つ。
- (2) 患者や家族との対応には、医学生としての良識ある行動をとり、不用意な発言を慎み、とくに診断や病状などの質問に対しては主治医を通じて答えること。
- (3) 個人情報を含む資料は、主治医の許可なく看護師詰所の外に持ち出さないこと。また使用後は必ず所定の場所に返却すること。また、院外への患者情報の持出しは禁止する。
- (4) 教科書から離れ、患者から生の医学を学ぶことが実習の目的であることをよく理解し、医師団の一員となった気持で考え、積極的に行動すること。
- (5) 報告書やカルテ内容を単に鵜呑みにするのではなく、もとのデータや画像を自ら読解し判断する態度を身につけることが大切である。
- (6) 基本的に朝担当医に指定された時刻から、夕方担当医の許可がおりるまで、1日を担当医と共に行動すること。
- (7) 帰宅後も特に担当患者の疾患や治療法・手術方法などの勉強をし、十分な知識を身につける努力をすること。またその日に学んだ事項について教科書等で確認しておくこと。
- (8) 患者に最高の医療を行うことを常に目指すべきであり、学生といえども同様に、最新の知識を医学文献から得る習慣を身につけること。

8 医学実習 I にて経験できる医行為

- 診療記録記載（診療録作成）
- 直腸診察
- 清潔操作
- 手指消毒（手術前の手洗い）
- ガウンテクニック
- 皮膚縫合
- 消毒・ガーゼ交換
- 抜糸
- 手術助手
- 超音波検査（腹部）
- 定型的な術前・術後管理の指示

臨床実習時間割

外科学（消化器外科学）

曜日	午		前		午		後
	7:30	8:00	8:30		13:00	18:00	19:00
第1週	月	7:30 オリエンテーション	8:00 病棟 症例検討	8:30 カンサーボード 手術室実習			
	火	グループ 回診	術前 症例検討	病棟実習 (外来実習)			
	水	グループ 回診	抄読会 (月2回)	術後 症例検討	総回診	手術室実習 病棟実習	
	木	グループ 回診		病棟実習 (外来実習)			
	金	グループ 回診	問題症例 検討	手術室実習 病棟実習			

曜日	午		前		午		後
	7:30	8:00	8:30		13:00	18:00	19:00
第2週	月	7:30 グループ 回診	8:00 病棟 症例検討	8:30 カンサーボード 手術室実習			
	火	グループ 回診	術前 症例検討	病棟実習 (外来実習)			
	水	グループ 回診	抄読会 (月2回)	術後 症例検討	総回診	手術室実習 病棟実習	合同カンファレンス (2ヶ月に1回) 自由参加
	木	グループ 回診		病棟実習 (外来実習)			
	金	グループ 回診	問題症例 検討	手術室実習 病棟実習			

外科学（呼吸器・乳腺内分泌外科学）

1 集合時刻

月曜日（実習開始1日目） 午前8時30分
（実習開始日が祝日の場合は、南6階ナースステーションに平日の午前8：30に集合、
水曜日は午前8：00に南6階カンファレンスルームに集合）
2日目以後はWebclassで確認する。

2 集合場所

初日、基本的に南6階に集合となるが、Webclassで確認する。
2日目以後は指示

3 具体的な目標

- ・ 一般目標（G I O）
優秀で誠実な医師になるため、外科学を理解し、基礎的な技術を実践する。
- ・ 行動目標（S B O s）
患者のプライバシーを守る。
患者の病状を理解する。
呼吸器外科の基礎的な術式を理解する。
乳腺・内分泌外科の基礎的な術式を理解する。
基礎的な外科手技を実践する。

4 実習内容

教室は、呼吸器外科、乳腺内分泌外科を担当している。臨床実習は外来、病棟、手術場で診断、治療が行われていく過程を体験し、それまでの基礎的な知識の確認、統合を行い外科学の一端を理解してもらうことを目的としている。

- (1) 心がまえ：教科書で学べない、本当の疾患を体験するとともに、患者に積極的に接してもらう。自分でなぜ？という問いかけを常に行い、疑問点は担当教員、関連文献などを通じて解決する姿勢を学んでもらいたい。
- (2) スケジュール：具体的なスケジュールは別表通り。事前にWebclassで、オリエンテーションを確認すること。第一月曜日、8時30分に南6階に集合、実習内容、患者割り当てが行われる。期間中、個別の分野の特別講義を行う。内容は教科書の範囲を超えた実践的なものである。外来実習では外来患者がどのように診察され、説明を受けるかを研修する。この時インフォームド・コンセントについても理解する。病棟実習では担当患者と深く接し、患者の病的状態の理解とともに、精神的葛藤なども理解する。

5 EBM活用方針

レポートの作成時には、考察の根拠となった文献、ガイドライン等を明示する。

6 評価方法

実習態度、レポート、webclassでの課題問題、カルテ記載等、全体を評価する。

7 実習上の注意

- (1) 臨床実習は患者の厚意のうえに成り立っていることに留意、感謝の気持ちで接する必要がある。患者のプライバシー、家族への配慮も必要である。疾患内容についての不用意な発言は当然慎まなければならない。
- (2) 臨床実習中は一人の医師として扱われる。医師としての品位を保つ服装、態度が必要である。装飾品（ピアスなど）の着用、奇抜な外観は厳禁である。白衣、ケーシー、スクラブを着用し、聴診器を携帯すること。
- (3) やむを得ず欠席するときは必ず連絡し、欠席届を提出すること。無断欠席した場合実習点が0となる。
- (4) 不明な点があれば、指導教員に質問すること。

8 医学実習 I にて経験できる医行為

• 皮膚消毒 • ネブライザー • 尿道カテーテル挿入・抜去 • 清潔操作 • 手指消毒（手術前の手洗い） • ガウンテクニック • 止血処置 • 手術助手 • 定型的な術前・術後管理の指示 • 酸素投与量の調整

臨床実習時間割

外科学（呼吸器・乳腺内分泌外科学）

曜日	午		前		午		後	
	月	8:30 オリエンテーション (横田・南6階CR)	9:00 乳腺外来／実験 (阿部・外科外来／劉・医局前)	11:00 基本の縫合 (池田・スキルスラボ3階)	12:00			18:30 呼吸器キャン サーボード (南6階病棟CR)
第1週 火	9:00 手術実習 (手術室)						17:00	
水	8:00 術前後カンファ レンス・教授回診 (南6階病棟CR)	呼吸器外科外来 (矢島・外科外来)		13:00 区域切除について (矢島・南6階病棟CR)		14:00		
木	9:00 手術実習 (手術室)						17:00	
金		8:30 胸膜疾患 (横田・南6階CR)	9:00 肺・縦隔疾患 (三崎・南6階CR)	9:30	14:00 呼吸器感染症 (松浦・南6階CR)	15:00 乳腺疾患 (橋本・南6階CR)	16:00	

曜日	午		前		午		後	
	月		9:00 実験／乳腺外来 (劉・医局前／阿部・外科外来)	11:00				18:30 呼吸器キャン サーボード (南6階病棟CR)
第2週 火	9:00 手術実習 (手術室)						17:00	
水	8:00 術前後カンファ レンス・教授回診 (南6階病棟CR)	9:30 呼吸機能検査 (池田・南6階CR)	10:00 BFS講義 (三崎・南6階CR)	10:30				
木	9:00 手術室実習						17:00	
金					12:00 プレゼンテーション (矢島・南6階CR)	13:00 甲状腺疾患 (橋本・南6階病棟 CR)	14:00 15:00	

CR：カンファレンスルーム

整形外科学

1 集合時刻

第1日目（月）午前8時30分

（月）が祝日の場合は（火）の午前7時50分に病院西4階カンファレンスルームに集合

2 集合場所

整形外科医局（臨床研究棟3階）

3 具体的な目標

・一般目標（G I O）

骨関節疾患の診断方法と外科的治療の概要について理解する。

・行動目標（S B O s）

関節疾患、脊椎疾患、手の外科および骨軟部腫瘍の代表的疾患について各々の病態と診断方法さらに手術的治療内容について具体的に説明できる。

4 実習内容

外来、病棟、手術室において実際の診察法、画像などを総合した診断法、治療法を実習する。

外来実習：外来実習は診察法や患者への接し方を学習する。

病棟実習：各人が1人の患者を受け持ち、病棟医の指導で診断、治療の実際を学習する。
受持ち患者のカルテ記載を学習する。

実習中に受持ち患者のケースレポートをまとめる。

回診：主要な入院患者について診断法、治療法を学ぶ。

手術学習：手術の見学のほか受け持ち患者の手術には適時参加する。

B S T：関節外科、手の外科、脊椎外科、骨軟部腫瘍、スポーツ医学・リウマチなどの専門的な話題を入院患者を中心に学習する。

まとめ：受持ち患者のケースレポートをまとめ、提出する。

5 EBM活用方針

1. 症例提示にあたり、治療方針の根拠となったEBMを必ず学習する。
2. レポート作成時には考察の根拠となった論文、ガイドラインを明示する。
3. 英語文献の抄読会に参加し、最新のエビデンスを学習する。

6 評価方法

実習の出席、実習の態度およびケースレポートで評価する。

7 実習上の注意

- ・清潔な白衣もしくはケースーと靴を着用し、手指・頭髮は清潔に保つこと。
- ・患者及び家族に不快感を与えないよう言動には十分注意して実習を行うこと。
- ・集合時間を厳守すること。無断欠席は認めない。
- ・やむを得ず欠席する場合は学務課教務係へ連絡すること。
- ・手術室内での私語は厳に慎むこと。

8 医学実習 I にて経験できる医行為

- ・医療面接
- ・診察法（全身・各臓器）
- ・清潔操作
- ・手指消毒（手術前の手洗い）
- ・ガウンテクニック
- ・皮膚縫合
- ・消毒・ガーゼ交換
- ・抜糸
- ・手術助手

臨床実習時間割

整形外科

	曜日	午 前	午 後
第 1 週	月	8:30 オリエンテーション (川田) [医局] 9:00 骨折3Dシミュレーション (千田) [医局]	/
	火	7:50 全体カンファレンス [西4Fカンファ室] ⇒病棟実習/外来見学	13:30 股関節外科BST (岩田) [西4Fカンファ室] 15:00 脊椎外科BST (小松原) [西4Fカンファ室]
	水	手術室実習/病棟実習	
	木	手術室実習/病棟実習	
	金	7:50 全体カンファレンス、回診 [西4Fカンファ室] 9:00 整形外科概要 (石川) [医局]	14:00 ギプス実習 (岡) [外来1F整形外科 外来処置室]

	曜日	午 前	午 後
第 2 週	月	8:30 手の外科BST (加地) [西4Fカンファ室] ⇒手術室実習/病棟実習	/
	火	7:50 全体カンファレンス [西4Fカンファ室] 8:40 膝関節外科BST (森) [西4Fカンファ室] 11:00 リハビリテーション実習 (森田) [2Fリハビリテーション室]	病棟実習 16:00 骨軟部腫瘍BST (福岡) [医局]
	水	大島青松園見学実習	
	木	手術室実習/病棟実習	
	金	7:50 全体カンファレンス、回診 [西4Fカンファ室] レポート・感想文・出席表提出、書籍返却 [医局]	/

泌尿器科学

1 集合時刻

午前8時00分

2 集合場所

泌尿器科医局（研究棟、3F）

月曜日が祝日の場合、火曜日7時30分 西3階カンファレンスルームに集合

3 具体的な目標

・一般目標（G I O）

代表的な泌尿器科疾患に対する知識を身につける。

泌尿器科診療でよく行われる検査、手技を指導者のもと実践できる。

・行動目標（S B O s）

代表的な泌尿器科疾患に関する検査、治療法などを説明できる。

よく行われる簡単な検査を指導のもと行える。

4 実習内容

- (1) 病棟実習 原則としてそれぞれの学生に対し、1名の受持ち患者を割り当てる。受持ち患者の診察、処置・検査の見学・介助。
- (2) 外来実習 外来患者の診察及び診断
検査実習・見学—尿検査、X線造影検査、内視鏡、超音波、排尿機能検査等
- (3) 手術実習 術前・術後管理、手術見学、介助、手術ビデオ供覧
- (4) カンファレンス：病棟カンファレンス等への参加
- (5) 受持ち患者に関するスライド作成、文献抄読、発表、討論

5 EBM活用方針

症例発表においては必ずEBMを提示しながら診断、治療等を考察する。

6 評価方法

- ・スライドを作成・発表し、指導医が評価する。
- ・専門医の指導のもと、尿検査、超音波検査、ドライボックスでの縫合実習を行う（タイムトライアルによる評価）。

7 実習上の注意

- (1) 集合時間の厳守
- (2) 患者に対しては良識ある行動をとること。
- (3) 全ての実習は教員の指示に従うこと。
- (4) 服装・身だしなみに注意。火曜日、木曜日、金曜日はスクラブの着用は禁止。
- (5) 無断欠席は認めない。
- (6) 止むを得ず欠席する場合は必ず連絡し、欠席届を提出すること。

8 医学実習 I にて経験できる医行為

- ・医療面接
- ・前立腺触診
- ・尿道カテーテル挿入・抜去
- ・尿検査
- ・超音波検査（腹部）

臨床実習時間割

泌尿器科学

	曜日	午 前		午 後		
	第 1 週	月	8:00 オリエン テーション (医局)	手術見学		
火		7:30 病棟カンファ レンス	教授 回診	9:00	外来実習	
水		8:00 講義 (医局)	手術見学			病棟実習
木		8:30 講義 (外来)	外来・病棟実習			外来実習 (検尿、超音波、腹腔鏡縫合実習)
金		7:30 病棟カンファ レンス	教授 回診	9:00		病棟実習

	曜日	午 前		午 後		
	第 2 週	月	8:00 講義 (医局)	手術見学		
火		7:30 病棟カンファ レンス	教授 回診	9:00	外来実習	
水		8:00 講義 (医局)	手術見学			病棟実習
木		8:30 講義 (医局)	外来・病棟実習			手術見学
金		7:30 病棟カンファ レンス	教授 回診	9:00		腹腔鏡縫合実習

脳神経外科学

1 集合時刻

実習1日目は、午前8時00分に集合。

2日目以降については、オリエンテーションの際に説明する。

2 集合場所

3階カンファレンスルーム（基礎臨床研究棟3階、脳神経外科医局横）

2日目以降については、実習1日目に配布する実習時間割表を参照のこと。

第1週月曜日が休日の場合は、火曜日の午前8時00分に3階カンファレンスルームに集合すること。

3 具体的な目標

・一般目標（G I O）

担当症例の診察、フィルムカンファレンス及び課題実習などを通し、これまでの統合講義で得た脳神経外科学分野の知識を整理・習得する。医師として、脳神経外科症例のみならず、一人の患者をいかに診断し、治療していくかという思考過程についても理解する。

・行動目標（S B O s）

- ・中枢神経系の構造・機能を解剖学的・生理学的に説明できる。
- ・中枢神経系・末梢神経系が障害された時の症状を述べる。
- ・病歴聴取ならびに神経学的所見の記載法を習得する。
- ・神経学的所見に基づいて、障害部位・局在を診断できる。
- ・画像診断（C T, M R I, 核医学画像など）の適応を判断し、その画像所見が説明できる。
- ・脳神経外科分野における主要な疾患（脳血管障害・脳腫瘍・神経外傷・機能的疾患・神経感染症など）の病態・診断・治療について説明できる。
- ・緊急性を要する脳神経外科疾患の病態とその対応について説明できる。
- ・手術見学を通じて、脳神経外科手術の実際を理解する。
- ・担当症例において自ら積極的に問題を提起し、指導医と議論できる。

4 実習内容

- (1) 症例カンファレンス、病棟回診、外来見学、DVD視聴を通して、神経学的診断法、神経放射線学的診断法、諸検査法を学習する。
- (2) 実習期間中は、2～3学生につき1人の指導医が指導にあたる。学生は指導医の患者を受け持ち、レポートを作成する。
- (3) 学生1人につき1題の症例問題を与える。この症例について自らの力で診断を下し、関連した疾患及び治療法を勉強し、レポートとして提出する。
- (4) 小講義により中枢神経系の画像診断及び脳神経外科疾患について理解する。
- (5) 病棟・外来実習により、脳神経外科患者に対する処置・診断・治療の実際を学習する。
- (6) 手術見学により、脳神経外科手術の実際を学習する。
- (7) 神経救急蘇生（ISLS）コースに基づいたシミュレーション学習を行う。

5 EBM活用方針

レポート作成時には、考察の根拠となった論文、ガイドライン等を明示する。

6 評価方法

- ・実習レポート
- ・実習中の態度ならびに出席状況

7 実習上の注意

- (1) 患者さんに不快感を与えないような服装をすること。清潔な白衣またはケーシーを推奨する。スクラブを着用する場合には、上に白衣を羽織ること。
- (2) 患者及びその家族に対する配慮、時間厳守を常に心掛けておくこと。
- (3) 病棟実習では、診療内容につき、病棟医との積極的な討論を心掛けること。
- (4) 実習スケジュールは、患者、担当医師、緊急手術などの都合により、グループごとに異なることがある。変更の場合は適宜周知する。

8 医学実習 I にて経験できる医行為

- ・止血処置
- ・処方薬（内服薬、注射、点滴等）のオーダー
- ・食事指示
- ・安静度指示
- ・定型的な術前・術後管理の指示
- ・診療計画の作成

臨床実習時間割

脳神経外科学

曜日	午	前	午	後	
第 1 週	月	8:00～MMカンファレンス 実習オリエンテーション (3階CR)	講義：CT/MRIの みかた (医局)	/	
	火	8:30 手術見学 (中央手術場)			
	水	8:30 症例カンファレンス回診 (南病棟4階CR)	講義：脳血管撮影 (医局)	講義：脳血管障害 (医局)	講義：脳腫瘍 (医局)
	木	8:30 手術見学 (中央手術場)			病棟実習
	金	8:00 症例カンファレンス回診 (南病棟4階CR)	血管撮影見学 (血管撮影室)	病棟実習	

曜日	午	前	午	後	
第 2 週	月	8:00～MMカンファレンス 回診 (3階CR)	外来見学 (脳外科外来)	/	
	火	8:30 手術見学 (中央手術場)			
	水	8:30 症例カンファレンス回診 (南病棟4階CR)	病棟実習	課題レポート 質問タイム (医局)	病棟実習
	木	8:30 手術見学 (中央手術場)		ISLS (医局)	課題レポート検討 (医局) 感想文提出
	金	8:00 症例カンファレンス回診 (南病棟4階CR)	血管撮影見学 (血管撮影室)	病棟実習	症例レポート検討 (医局)

眼 科 学

1 集 合 時 刻

月曜日：午前 9 時 30 分

木曜日：午前 9 時 30 分

火曜日：午前 9 時 30 分

金曜日：午前 9 時

水曜日：午前 9 時

2 集 合 場 所

月(第1)・火：基礎臨床研究棟 1 階眼科図書室

月(第2)・木：外来診療棟 2 階眼科外来

水・金曜日：中央診療棟 3 階眼科手術室

3 具 体 的 な 目 標

・ 一般目標 (G I O)

眼科について、講義や臨床実習オリエンテーションで身につけた知識を臨床の場で活用できる。また医師として必要な診察の技術を習得する。

・ 行動目標 (S B O s)

①眼の解剖・生理を身につけ、疾患の病態について正確に理解できる。

②眼底や前眼部の観察、また対光反応などの神経学的検査ができる。

③診察から得られる所見から具体的な鑑別疾患をあげることができる。また、それらの治療法を知識として説明できる。

4 実 習 内 容

外来実習：実際に診療や検査を見学する。また、お互いに検査しあう（眼底検査、視力検査等）ことにより眼科学の理解を深める。

手術実習：手術見学により、眼科手術の実際を学習する。また、学生 1 人につき 1 症例の手術を当てる。担当の症例における疾患の病態および治療法を学習し、プレゼンテーションを行う。

5 EBM活用方針

プレゼンテーション発表においては必ずEBMを提示しながら診断、治療等を考察する。

6 評価方法

- ①臨床実習に臨む態度や出席日数から指導医評価の形で形成的評価を行う。
- ②プレゼンテーションの内容で総括的評価となる。

7 実習上の注意

- (1) 患者に対しては医学生として良識ある行動をとること。
- (2) 医学生としての自覚をもって実習に臨むこと。
- (3) 疑問や不明な点があれば、指導教官に質問すること。
- (4) 実習中はマスクと白衣またはケーシー白衣を着用すること。

8 医学実習 I にて経験できる医行為

- 医療面接
- 眼底鏡
- 皮膚縫合

臨床実習時間割

眼科学

	曜日	午 前	午 後	
	第 1 週	月	9:30 オリエンテーション 外来実習	
火		9:30 眼底読影実習	13:00 検査実習 (視力、眼圧、視野)	
水		9:00 手術実習		
木		9:30 外来実習	15:00 縫合・レーザー実習	16:00 病棟実習
金		9:00 手術実習		

	曜日	午 前	午 後	
	第 2 週	月	9:30 外来実習	
火		9:30 プレゼンテーション	13:00 検査実習 (OCTA、OCT) 眼底検査実習	
水		9:00 手術実習		
木		9:30 外来実習	16:00 病棟実習	
金		9:00 手術実習		

耳鼻咽喉科学

1 集合時刻

午前8時15分（火曜日・木曜日）

午前9時（月曜日・水曜日・金曜日）

1週目の月曜日が休日の際は、前週の水曜日までに医局に連絡をする。

2 集合場所

外来実習 外来診療棟2階耳鼻咽喉科外来

手術実習 中央診療棟3階手術部耳鼻科手術室、手術のない時は基礎臨床研究棟5階耳鼻咽喉科医局

病棟実習 東病棟7階ナースステーション

オリエンテーション

レポート発表

医療面接

基礎臨床研究棟5階耳鼻咽喉科医局

スキルスラボ実習 スキルスラボ2Fまたは3F

3 具体的な目標

・一般目標（GIO）

統合講義・OSCEで得た知識、実技を基に、担当症例に必要な検査、診断、治療法を提示し、患者の診察や症例報告が適切に行える能力を習得する。

・行動目標（SBOs）

1. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科全般の視診、触診ができる。
2. 聴力検査、平衡機能検査、嗅覚検査の方法、意義を理解し、一部は自身で実施できる。
3. 実臨床に生かせる基本的な外科手技、切縫術を身につける。
4. 外来患者に対して適切な態度で問診を行い、必要な検査や鑑別疾患を列挙できる。
5. 耳、副鼻腔、咽喉頭、頸部の手術に必要な解剖を理解し、説明できる。
6. 入院患者（担当症例）に対して適切な態度で接し、問診、診察、手術に参加し、術後の経過を把握し、担当医と議論することができる。
7. 担当症例の経過をまとめ、適切にプレゼンテーションができる。

4 実習内容

第1週の始めに入院患者を割当て、テーマを与える。また、学生相互間での診察・検査を行う。

原則として、担当患者の手術に助手として入り、担当患者の診察を実習する。最終日にWebclass上で作成したレポートを発表する。

実施した医行為は必ずWebclass上のログブックに記載する。

記載がない場合は課題達成の評価に影響する場合あり。

5 EBM活用方針

レポート作成時には、考察の根拠となった論文、ガイドライン等を明示する。

6 評価方法

担当症例と関連テーマを発表し、Webclass上でレポートを提出してもらう。レポート内容を発表し評価する。

7 実習上の注意

清潔な白衣を着用し、石鹸で手洗いをするなど、感染予防に留意するとともに、患者に不快な念を与えないように心掛ねばならない。

とくに患者との対話は丁寧に言い、「では診察をさせていただきます。痛かったらおっしゃってください。」と予め断ってから診察に臨み、診察が終れば「しばらくお待ちください。」といてその場を離れ、別の机で本を調べたり、互に検討したりする。

私語は厳禁する。

担当（手術）症例はカルテで病歴、画像所見などをチェックし、手術方法、必要な解剖について予習しておくこと。

予習が不十分な場合は実習に参加できない。

8 医学実習 I にて経験できる医行為

- ・医療面接
- ・バイタルサインチェック
- ・診察法（全身・各臓器）
- ・耳鏡・鼻鏡
- ・皮膚消毒
- ・静脈採血
- ・注射（皮下・皮内・筋肉・静脈内）
- ・清潔操作
- ・手指消毒（手術前の手洗い）
- ・ガウンテクニック
- ・皮膚縫合
- ・消毒・ガーゼ交換
- ・超音波検査（頸部）
- ・経皮的酸素飽和度モニタリング

臨床実習時間割

耳鼻咽喉科学

曜日	午 前		午 後	
	月	9:00	9:30	12:35
火	オリエンテーション			
水	8:15	手術実習		手術実習
木	9:00	スキルスラボ実習		13:00 病棟実習 (回診)
金				14:30 医局にて検査実習
土	8:15	手術実習		手術実習
日	9:00	外来実習		検査実習

曜日	午 前		午 後	
	月	9:00	診察実習、医療面接・救急対応	
火	8:15	手術実習		手術実習
水	9:00	スキルスラボ実習		13:00 外来にて検査実習
木	9:00	外来実習 (内視鏡手技)		手術実習・検査実習
金	9:00	レポート発表		

麻 醉 科 学

1 集 合 時 刻

麻醉実習 7時35分

I C U (Intensive Care Unit:集中治療部) 実習 9時
緩和講義の集合時刻は実習初日にお知らせします。

2 集 合 場 所

麻醉実習：中央診療棟3階手術部内の麻醉科カンファレンスルーム
(麻醉器材室奥の部屋、手術着に着がえて集合)

I C U実習：南病棟3階I C U

3 具 体 的 な 目 標

- ・一般目標 (G I O)
 麻醉による周術期患者の全身管理方法を習得する。
- ・行動目標 (S B O s)
 - ① 気道確保の道具・手技について説明できる
 - ② 術前患者状態を把握し、評価できる
 - ③ 麻醉導入・維持・覚醒に用いる薬剤を列挙し、説明できる
 - ④ 周術期モニタリングの原理を理解し、解釈できる
 - ⑤ 周術期合併症の診断と治療を理解できる
 - ⑥ 人工呼吸器の各種換気様式について説明できる
 - ⑦ ショックの種類とその治療法を説明できる
 - ⑧ 集中治療室の意義と適応、また行われる治療を理解できる
 - ⑨ 痛みの分類と治療法を説明できる

4 実 習 内 容

- 1) 急性期全身管理に必要な知識の整理
- 2) 麻醉・全身管理の実際を見学・実施する
(麻醉の導入・維持・覚醒の見学、バイタルサインチェック、簡易血糖測定、マスク換気)
- 3) 集中治療部における全身管理実習
- 4) シミュレーション実習 (末梢静脈路確保、気道確保)

5 文献活用方針

レポート作成時には、考察の根拠となった論文、ガイドライン等を明示する。

6 評価方法

担当指導医より与えられた課題について、レポートにまとめ提出する。
提出されたレポートから理解度、目標達成度が評価される。

7 実習上の注意

手術室や集中治療室では、重症患者と接する機会が多いため、感染対策や清潔操作に十分留意すること。

8 医学実習 I にて経験できる医行為

- バイタルサインチェック
- 末梢静脈確保
- 簡易血糖測定
- 気道確保
- バックバルブマスクによる換気

臨床実習時間割

麻酔学

	曜日	午 前		午 後	
	第 1 週	月	7:35 麻酔実習	9:00 オリエンテーション (カンファレンスルーム)	/
火		7:35 麻酔実習		麻酔実習	
水		7:35 麻酔実習		12:00 シミュレーション実習 (スキルスラボ)	
木		9:00 I C U実習		自主学習	
金		7:35 麻酔実習		麻酔実習	

	曜日	午 前		午 後	
	第 2 週	月	7:35 麻酔実習		/
火		7:35 麻酔実習		麻酔実習	
水		7:35 麻酔実習		麻酔実習	
木		9:00 I C U実習		13:30 緩和講義 (医局)	
金		9:00 総括 (医局)		自主学習	

総合診療医学

1 集合時刻

- ※第1週の月曜日（休日の場合は火曜日）午前9時に、
臨床研究棟2階の総合内科教官室（部屋番号256）に集合のこと
- ・学内実習（原則）：午前9時、午後1時30分
- ・学外実習：各々の施設の指示に従う

2 集合場所

- ・内科外来実習：内科外来診察室等
- ・医療面接・SP実習：講義棟1階（部屋番号131）
- ・学外実習：各々の施設に直接集合のこと

3 具体的な目標

- ・一般目標（GIO）
同時に多くの臓器障害や健康問題を抱える患者を心理面・社会面も含めて全人的に診察し、感染症・高血圧・糖尿病などのよくある病気にも対応する総合診療医の診療の仕方を修得する。
- ・行動目標（SBOs）
 1. 鑑別疾患を意識した医療面接と身体診察・臨床検査を行い、得られた情報から診療計画を立て、その結果を評価できる。
 2. 患者の社会的背景をも考慮した診療を行い、良好な患者医師関係を構築できる。
 3. 病棟における他臓器にわたる問題を抱える内科入院患者の診療を理解できる。
 4. 医療機器を用いた内科系診断法を理解できる。
 5. EBMに基づいた検査や治療の適応を考えることができる。
 6. カンファレンスなどで適切なプレゼンテーションができる。

4 実習内容

- 1 グループを前半・後半の2つのサブグループに分け、一部1週目と2週目の内容を入れ替えて以下の実習を行う。
 - ・内科外来で担当医の診察に同席し、新患・慢性疾患患者について愁訴の把握の仕方、診察の仕方、臨床検査・画像検査等各種検査の立案及びオーダーの仕方、各種指導の仕方、治療計画の立案の仕方、投薬・外来処置の仕方などを修得する。
 - ・医療面接・SP実習：香川大学SP研究会の協力を得て、同会会員のSP（Standardized Patients：標準患者）を対象に医療面接実習を行い、面接をしたSPからのフィードバック、学生相互間及び教員からの評価などを通じて、医療面接の仕方、良好な医師－患者関係の確立の仕方、患者の有する医療情報の引き出し方、診断過程、患者及び疾患背景や解釈モデルの理解の仕方、診療録記載の仕方などを修得する。

- ・学外実習：第一線の医療或いは看護の現場に接することにより、患者のニーズを把握し、対応の仕方を修得する。また、プライマリ・ケア診療の実際、慢性疾患管理の実際、訪問診療・在宅医療・訪問看護の実際についても併せて実習し、修得する。各医療機関ごとにおける実習感想文をレポートとする。
- ・EBM実習：患者における問題を解決するための医療情報（evidence）＝医学・科学文献の検索の仕方を修得し、得られた文献を批判的に吟味することによって、EBM（evidence-based medicine）の実際を体得すると共に、知識のまとめかた、presentationの仕方も修得する。レジюмеはレポートとなる。

5 EBM活用方針

レポート作成時には、考察の根拠となった論文等を明示する。

6 評価方法

レポートおよび実習態度

7 実習上の注意

- ・無断欠席は認めない。欠席する場合は、欠席届を学務課へ提出すること。
急病・忌引きなど急な場合は、電話（ダイヤルイン：087-891-2349）、またはe-mail（primary-m@kagawa-u.ac.jp）で欠席理由を連絡し、後日欠席届を提出すること。
- ・提示された時刻を厳守すること。遅刻は認めない。
- ・学外実習においては、身だしなみ及び言葉遣いに留意し、医学生としてふさわしい態度で臨むこと。
- ・各々の学外実習についての感想文（指定様式あり）を実習終了後1週間以内にWeb Class（医学部教育センターHP）にログインし、アップロードすること（必須）。
- ・EBM発表レジюме（様式なし）をレポートとして提出すること（必須）。

8 学外実習実施施設

- ・独立行政法人国立病院機構 高松医療センター
- ・KKR高松病院
- ・横井内科医院
- ・高松訪問看護ステーションまたは訪問看護ステーションこくぶ

9 医学実習Iにて経験できる医行為

- ・医療面接

臨床実習時間割

総合診療医学

曜日	午 前		午 後	
	月	9:00	12:00	
火	総合診療実習概説			
水	9:00	12:00	13:30	17:00
木	E B M実習		医療面接・S P実習	
金	9:00	12:00	13:30	17:00
土	感染症実習		E B M実習	
日	9:00	12:00	13:00	17:00
月	E B M実習		学外実習	
火	9:00	12:00	E B M実習	

曜日	午 前		午 後	
	月	9:30	12:00	
火	E B M実習			
水	9:00	12:00	14:00	17:00
木	E B M実習		18:00 症例検討 カンファレンス	
金	9:00	12:00	13:30	17:00
土	感染症実習		E B M実習	
日	9:00	12:00	13:30	17:00
月	E B M実習		学外実習	
火	9:00	12:00	14:30	15:30
水	E B M実習		医療面接実習 振り返り	
木			E B M発表	

放射線医学

1 集合時刻

第1週 月曜日 午前9時30分
2日目以後は、オリエンテーションの際に説明

2 集合場所

第1週 月曜日 基礎臨床研究棟1階 放射線医学講座医局
2日目以後は、オリエンテーションの際に説明

3 具体的な目標

- ・一般目標（G I O）
各種画像診断法・インターベンショナルラジオロジー（I V R）手技の実際を知り、その適応と役割について学び、総合画像診断の実際の進め方を理解する。
- ・行動目標（S B O s）
 - (1) 各種画像診断法の適応と役割について説明できる。
 - (2) 代表的なI V R手技の適応と役割について説明できる。
 - (3) 放射線被曝の予防に関し説明できる。

4 実習内容

- (1) 各種画像診断検査の見学、画像読影演習
 - ・単純エックス線検査
 - ・C T検査
 - ・M R I検査
 - ・核医学検査（P E T、S P E C T）
 - ・I V R
- (2) 放射線防護の原理についての講義

5 EBM活用方針

症例発表においては必ずE B Mを提示しながら診断等を考察する。

6 評価方法

出欠席、レポート

7 実習上の注意

無断欠席・遅刻はしないこと。

臨床実習時間割

放射線医学

曜日	午 前		午 後
月	9:30 オリエンテーション他 (放射線医学講座医局)		
火	9:30 外 来 実 習		13:30 外 来 実 習
水	9:30 外 来 実 習		13:30 外 来 実 習
木	9:30 外 来 実 習		13:30 外 来 実 習
金	9:30 外 来 実 習		13:30 外 来 実 習

放射線腫瘍学（放射線治療科）

1 集合時刻

午前9時00分

2 集合場所

放射線治療科 外来受付前

それ以降のスケジュール、学習課題の詳細はオリエンテーションの際に説明する。

3 具体的な目標

・一般目標（G I O）

放射線治療の対象となる疾患の生物学的、腫瘍学的特性を説明できる。

放射線治療の原理・方法、治療の適応、臨床的意義を説明できる。

・行動目標（S B O s）

放射線治療装置、照射方法（外部照射・小線源治療）について説明できる。

代表的な悪性腫瘍（肺癌、乳癌、前立腺癌、子宮癌、食道癌など）に対する標準治療の内容を理解できる。

放射線治療の優れた特徴と役割について手術療法、化学療法と比較して説明できる。

4 実習内容

放射線腫瘍学について実習・講義、症例検討を行う。

人体に対する放射線影響、防護に関する基礎知識を修得する。

治療施設（直線加速器、小線源治療装置）の見学を行う。

外来にて対象患者の診察、問診、治療計画に参加する。

各自の担当する悪性腫瘍について症例検討（治療内容、治療効果、有害事象）を行い、レポート課題を作成・提出し、相互討論により知識を深める。

5 EBM活用方針

実習期間中は各自に「放射線治療計画ガイドライン」の最新版を貸与する。

症例発表、レポート作成時には、一般論として教科書の記述を踏まえた上で、当該疾患の最新の「診療ガイドライン」を参照し、標準治療のエビデンスについて概説する。また、根拠となる論文等の出典や引用元は必ず明示する。

6 評価方法

実習への出席、取り組み方、受講態度を含めて評価対象とする。レポート課題の学習内容と提出、少人数講義での総合討論、口頭試問を行い、理解度を評価する。

7 実習上の注意

時間厳守

欠席は原則として認めない。

やむを得ない事情がある場合は、事前に放射線治療科医局（087-891-2413）に連絡し指示を仰ぐ。（必要に応じて、補習を行う）

8 医学実習Ⅰにて経験できる医行為

- 診療記録記載（診療録作成）
- 医療面接

臨床実習時間割

放射線腫瘍学（放射線治療科）

	曜日	午 前		午 後
第 1 週	月	9:00 オリエンテーション 放射線治療装置・施設見学		/
	火	9:00 講義・実習・レポート (Webclass)		13:30 講義・実習・レポート (Webclass)
	水	9:00 講義・実習・レポート (Webclass)		13:30 講義・実習・レポート (Webclass)
	木	9:00 講義・実習・レポート (Webclass)		13:30 講義・実習・レポート (Webclass)
	金	9:00 講義・実習・レポート (Webclass)		13:30 講義・実習・レポート (Webclass)

皮膚科学

1 集合時刻

午前9時30分：皮膚科外来（外来診療棟2階）
（午後は原則として14時00分から）

2 集合場所

外来実習……………皮膚科外来（外来診療棟2階）
病棟実習……………東病棟6階，西病棟6階カンファレンス室
ミニ講義、臨床病理検討会、レポート討論……………皮膚科学カンファレンス室（基礎臨床研究棟4階）

3 具体的な目標

・一般目標（G I O）

- ① 学習者は、これまで学んだ基礎医学の知識を基にして、皮膚の構造と機能を理解する。
- ② 疾患ごとにその構造と機能のどこに異常が生じているかを理解する。
- ③ 学習者は、内臓疾患の皮膚への影響および皮膚疾患の全身への影響なども理解し、認識する。
- ④ 皮膚疾患の治療法を知る。
- ⑤ 学習者は、系統講義で学んだ知識を臨床実習で応用することにより、技術の習得に役立て、実際の診療に役立つ皮膚科学の生きた知識を身につけることが可能である。

・行動目標（S B O s）

- ① 学習者は、正常皮膚の構造と機能を説明し、病変部皮膚の病理学的所見と対比できる。
- ② 腫瘍・母斑（症）の病態を説明し、分類できる。
- ③ 各疾患の診断に必要な検査法を列挙し、結果を予測できる。
- ④ 皮膚病変の肉眼的特徴を述べ、臨床実習に応用する。
- ⑤ 内臓疾患に併発する皮膚疾患を列記し、生じうる症状を予測できる。
- ⑥ 学習者は、炎症性疾患の病態を説明し、分類できる。
- ⑦ 皮膚疾患が他臓器に与える影響を説明し、行うべき検査を推論できる。
- ⑧ 皮膚科の治療法を列挙し、腫瘍疾患の治療法を考え、臨床実習での応用を説明できる。

4 実習内容

臨床学習時間割参照（外来実習では外来患者さんを診てもらい、医療面接の実習として問診や皮膚所見をとってもらいます。また、初診、再診を問わず担当した外来患者さんの病名や治療法については、1例ごとに毎日まとめをしておいてください。）

レポート作成と発表・討論（金曜日）

月曜日にWebClassでテーマ設定し、実習中にレポートを作成します。

金曜日午後、レポート討論を行います。

（最終レポート提出は金曜日朝までに：厳守）

5 EBM活用方針

1. 症例発表においては、必ずEBMを提示しながら診断、治療等を考察する。
2. レポート作成時には、考察の根拠となった論文・ガイドライン等を明示する。

6 評価方法

あらかじめWebClassで案内した外来実習における事前準備、病棟評価、レポート内容等を（各項目ごと採点）総合して最終判定とする。

7 実習上の注意

- (1) 時間厳守。服装・言動には十分注意すること。
- (2) 授業ノート、参考書持参のこと。（皮膚病図譜やアトラスなども必要です。）
- (3) 皮膚科総論や皮疹の診方などについては必ず予習をしてくること。

8 その他

感染対策のステージ等によりスケジュールが変わることがあります。

必ずWebClass上で最新の案内を参照してください。

椅子などの使用した物品は必ず元の場所に戻すこと。

病歴、資料、図書利用後は必ず所定の場所へ返却すること。（病歴は電子カルテ参考可）

資料（スライド写真、組織標本など）は担当医より借用し注意深く取扱うこと。

皮膚科外来、病棟実習中は飲食を禁じます。（カンファレンス室も含む。）

カンファレンス室の顕微鏡を含めた精密備品等を破壊せぬよう厳重に注意。

9 医学実習 I にて経験できる医行為

- 診療記録記載（診療録作成）
- 医療面接
- バイタルサインチェック
- 診察法（全身・各臓器）
- 高齢者の診察（ADL 評価、高齢者総合機能評価）
- 診療計画の作成

臨床実習時間割

皮膚科学

曜日	午 前		午 後
月	9:30 外来実習：予診 (サブグループ1のみ)	12:00	16:00 17:00 ミニ講義 ※備考
火	外来実習：診察・処置		/
水	レポート作成 (病院での実習はなし)		/
木	外来実習：予診 (サブグループ2のみ)		14:00 16:30 病棟回診、カンファレンス (臨床、病理)
金	外来実習：診察・処置		14:00 16:00 レポート討論

※他の講義と時間帯が重複する場合は1週間前までにグループの代表者から担当教員に知らせてください。別の曜日等に変更します。

地域医療学（地域医療教育支援センター）

1 集合時刻

実習週の月曜日 10:30よりオリエンテーションを行います。
月曜日が祝日の際は、前週の金曜日にオリエンテーションを行います。
2日目以降については、オリエンテーションの際に説明をします。

2 集合場所

臨床教育開発棟（基礎臨床研究棟 西側）1階 小会議室

3 具体的な目標

・一般目標（G I O）

地域医療に貢献するための能力を身につけることを目標に、地域社会（僻地・離島を含む）で求められる保健・医療・福祉・介護の活動に参加することにより、各々の現状および課題を理解し、それらの連携の重要性等、地域医療の在り方を学ぶ。

・行動目標（S B O s）

- 1) 地域のプライマリ・ケアを体験する。
- 2) 病診連携・病病連携を体験する。
- 3) 地域の救急医療、在宅医療を体験する。
- 4) 多職種連携のチーム医療を体験する。
- 5) 地域における疾病予防・健康維持推進の活動を体験する。
- 6) 地域社会（僻地・離島を含む）における医療の状況、機能および体制等を含めた地域医療について概説できる。
- 7) 医師の偏在（地域および診療科）の現状について説明できる。
- 8) 地域における、保健（母子保健、老人保健、精神保健、学校保健）・医療・福祉・介護の分野間および多職種間（行政を含む）の連携の必要性について説明できる。
- 9) 地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解する。
- 10) 地域における、救急医療、在宅医療、地域包括ケアの体制を説明できる。
- 11) 災害時における医療体制の確立の必要性と、現場におけるトリアージを説明出来る。
- 12) 地域医療に積極的に参加・貢献する。

4 実習内容

サブグループに分かれて、それぞれの地域医療実習コースに参加する。
各コースでは複数の関連病院における地域医療現場にて、保健・医療・福祉・介護の活動を体験する。
Webclassで課題を選択して最終日までにレポート作成する。
最終日には、総合討論を行い、各々が体験したこと及び学んだことを報告する。

5 EBM活用方針

レポート作成時には、考察の根拠となった論文・ガイドライン等を明示する。

6 評価方法

① リアルタイムWEBアンケートシステムにより評価を行う。

【学生の自己評価】

本センターのホームページ上のWEBアンケート〔学生〕にログインし自己評価を入力する。

実習前（オリエンテーション時）にプレ評価を入力する。

実習後（実習報告会・総合討論前）にポスト評価および実習病院毎の感想（コメント）を入力する。

【実習施設の指導教員からの学生評価】

実習後にWEBアンケート〔指導者〕にログインし、学生の評価を行う。

学生の自己評価はプレ・ポストともにリアルタイムに集計され、実習の感想（コメント）も実習病院毎に集計され、実習病院指導教員は随時閲覧可能な状態となっている。

【実習報告会・総合討論】

金曜日に、グループ全員が集合し報告会・総合討論を行い、ディスカッションを通じて、本院指導教員が地域医療に対する理解度を評価する。

② webclassで選択した課題のレポートを作成する。

7 実習上の注意

- 1) 集合時間の厳守、無断欠席厳禁。
- 2) 身だしなみ服装、特に清潔さには十分留意すること。
- 3) 患者や家族への対応には医学生としての良識をもって行動すること。
- 4) 関連病院においては、指導教員やスタッフへの感謝を忘れないこと。
- 5) やむを得ず欠席・遅刻の場合は午前8：30までに地域医療教育支援センターに必ず連絡すること。

8 医学実習Ⅰにて経験できる医行為

- 医療面接
- バイタルサインチェック
- 診察法（全身・各臓器）
- 経皮的酸素飽和度モニタリング

臨床実習時間割

地域医療教育支援センター

曜日	午 前	午 後
月	オリエンテーション (10:30~) オリエンテーション当日にPreWebアンケートを必ず入力 月曜日が祝日の際は、前週の金曜日にオリエンテーションを行います	/
火	指定された実習施設での地域医療実習	
水	指定された実習施設での地域医療実習	
木	指定された実習施設での地域医療実習	
金	レポート・発表資料の作成・発表準備 postwebアンケート、実習病院毎のコメント入力	13:30or14:00～：報告会・総合討論

実習施設 (実習日程については、別途掲示し周知します)

名 称	所 在 地
綾上診療所	香川県綾歌郡綾川町山田下3352-1
香川県済生会病院 (済生丸)	香川県高松市多肥上町1331-1
香川県立白鳥病院	香川県東かがわ市松原963
かがわ総合リハビリテーションセンター	香川県高松市田村町1114番地
在宅診療 敬二郎クリニック	香川県高松市多肥上町1297-1
こくぶ脳外科・内科クリニック	香川県高松市国分寺町福家3812-1
坂出市立病院	香川県坂出市寿町3-1-2
さぬき市民病院	香川県さぬき市寒川町石田東甲387-1
小豆島中央病院	香川県小豆郡小豆島町池田2060-1
陶病院	香川県綾歌郡綾川町陶1720-1
総合病院 回生病院	香川県坂出市室町3丁目4-28
高松市民病院 塩江分院	香川県高松市塩江町安原上東99-1
滝宮総合病院	香川県綾歌郡綾川町滝宮486
藤田脳神経外科医院	香川県三豊市高瀬町新名971番地1
ふじみ眼科・内科クリニック	香川県坂出市富士見町1丁目1-11
三豊市立みとよ市民病院	香川県三豊市詫間町詫間6784番地206
三豊総合病院	香川県観音寺市豊浜町姫浜708
横井内科医院	香川県高松市木太町1663-2
りつりん病院	香川県高松市栗林町3丁目5番9号

欠席・遅刻の場合の連絡先

香川大学医学部附属病院 地域医療教育支援センター
 直通 TEL：087-891-2489 (平日8:30～17:15)

救急災害医学・救命救急センター

1 集合時刻

朝10時

2 集合場所

救命救急センターカンファレンスルーム（南1階）

3 具体的な目標

- ・ 一般目標（G I O）
緊急に対応すべき疾患の病態、診断と治療を学ぶ。
- ・ 行動目標（S B O s）
重症救急疾患の蘇生治療に参加する。
集中治療を経験する。

4 実習内容

救急車及びドクターヘリにより搬送される重症救急患者の初期対応・治療を見学体験する。実習中、学生はP H Sを常時携帯し緊急の呼び出しに対応できるようにしておくこと。救急車対応以外の時間は、救命救急センター入院中の患者を担当し、担当患者の病状治療経過を把握した上でカンファレンスに参加する。課題をグループ内で検討し、発表する。

5 EBM活用方針

- ・ P u b M e dの使い方を覚える。
- ・ 英語文献の抄読会に参加する。

6 評価方法

出席、実習中に対する態度や姿勢、課題発表の内容を加味する。

7 実習上の注意

礼節を大切にすること。

当日体調不良を含めて、実習に来られない場合は学務課教務係に連絡すること。

能動的に実習に取り組むこと。

ドクターヘリ見学は、ヘリ離着陸時は前室から出ないこと。

8 医学実習 I にて経験できる医行為

- 静脈採血
- 末梢静脈確保
- 止血処置
- 超音波検査（心血管）
- 超音波検査（腹部）
- 心電図検査
- 経皮的酸素飽和度モニタリング
- 一次救命処置
- 気道確保
- 胸骨圧迫
- バックバルブマスクによる換気
- AED * 2
- 酸素投与量の調整
- 診療計画の作成

臨床実習時間割

救急災害医学・救命救急センター

曜日	午 前	午 後
月	10:00集合 オリエンテーション	
火	10:00集合 院内実習、ドクターヘリ見学	
水	10:00集合 院内実習、シミュレーターを用いた採血・ルート確保実習	
木	10:00集合 院内実習	
金	10:00集合 院内実習、課題発表	14:00 まとめ

・学生用P H S (5632) は希望学生は携帯するように。

総合周産期母子医療センター（新生児部）

1 集合時刻

臨床実習時間割に記載された時間

月曜日が休日の場合は火曜日10時にNICUに集合

2 集合場所

午前：新生児集中治療室（NICU東側入口より入室）

午後：実習初日に別途指示

3 具体的な目標

・一般目標（GIO）

これまでの講義で学習した知識について、実際の臨床現場での医療を見学、実習することにより整理、確認を行う。生命誕生の尊さを学ぶとともに、患者・患者家族への治療アプローチの方法を理解する。

・行動目標（SBOs）

新生児の出生後の生理変化を説明できる。

新生児の正常所見、異常所見の違いを説明でき、診察できる。

新生児蘇生法を説明でき、モデル人形を用いて実践できる。

代表的な新生児疾患について症状、検査（画像を含む）所見の評価ができる。

妊産婦の病態の特殊性について説明できる。

母体救命の方法について理解でき、モデル人形を用いて実践できる。

4 実習内容

初日のオリエンテーション時に実習の詳細について説明する。

教員の指導のもとに、総合周産期母子医療センター実習（臨床実習時間割参照）を行う。

臨床に即した講義、臨床の見学、臨床手技に準ずる実習を行う。

正常新生児の診察ができ、異常所見の把握ができるようにする。

正常新生児の環境設定、栄養について理解できるようにする。

新生児のバイタルサインの把握、緊急時の蘇生対応を行えるようにする。

新生児黄疸、低出生体重児、先天性心奇形、新生児仮死等の病態が理解できる。

妊産婦のバイタルサインの把握、救急対応について理解できるようにする。

5 EBM活用方針

診療に参加するにあたっては、EBMを提示しながら診断、治療等を考察する。

6 評価方法

実習中の態度、出席状況

課題発表内容

7 実習上の注意

総合周産期母子医療センターはNICU東側入口より入室すること。

準清潔区域であることを自覚すること。

体調不良の際は実習前（NICU入室前）に指導教員に申しでること。

個人情報保護の厳守につとめること。

患者様や御家族の周辺での言動には十分な注意、配慮をすること。

8 医学実習 I にて経験できる医行為

- バイタルサインチェック
- 診察法（全身・各臓器）
- 超音波検査（心血管）
- 一次救命処置
- 気道確保
- 胸骨圧迫
- AED * 2

臨床実習時間割

総合周産期母子医療センター

曜日	午前 8:50 ~	午後 13:00 ~
	(集合：NICU)	
月	8:50 NICU回診 オリエンテーション	/
火	10:00 病棟実習	13:00 母体緊急対応実習
水	10:00 病棟実習	13:00 新生児診察法（講義）
木	10:00 NCPR前半	13:00 新生児マススクリーニング（講義）
金	8:50 NICU回診	13:00 NCPR後半

注意事項

集合場所を含め準清潔区域の病棟での実習となります。
 テキストは各自用意してください。
 適時日程の変更はあります。

歯科口腔外科学

1 集合時刻

月・火・木	午前8時30分	臨床研究棟1階	歯科口腔外科医局
水	午前8時00分		
金	午前8時30分	手術室	

2 集合場所

病棟：東病棟7階 歯・顎・口腔外科処置室

外来：外来診療棟2階 歯・顎・口腔外科外来

症例検討・臨床実習講義：

外来、臨床研究棟1階歯科口腔外科研究室（医局）、または指定の場所

3 具体的な目標

・一般目標（G I O）

口腔領域の解剖や機能、歯科口腔外科疾患を理解し、その検査・診断・治療法を修得する。

・行動目標（S B O s）

口腔内や術野を観察し、診察や検査の介助ができる。

治療法を計画し、治療の介助ができる。

4 実習内容

- (1) 病棟実習 口腔外科患者の正しい理解、入院患者の症状、診断及び治療法
- (2) 外来実習 外来患者の予診、診断及び治療法、口腔内印象採得実習、外来外科手術の介助
- (3) 手術実習 見学介助及び術後管理

5 EBM活用方針

- (1) 症例発表においては必ずE B Mを提示しながら診断、治療等を考察する。
- (2) レポート作成時には、考察の根拠となった論文、ガイドライン等を明示する。

6 評価方法

不定期の口頭試問と課題レポートにて評価する。

7 実習上の注意事項

- (1) 病棟・外来の実習はネームプレートを付けた清潔な白衣を着用し、患者に対しては態度や言葉づかいに気をつけること。
- (2) 遅刻・欠席は減点の対象とする。
- (3) 配布するプリント等は水曜日にレポートと一緒に提出してもらいます。

8 その他

グループにより実習の時間帯の変更があるので注意すること。

9 医学実習 I にて経験できる医行為

- 清潔操作
- 手指消毒（手術前の手洗い）
- ガウンテクニック

臨床実習時間割

歯科口腔外科学

	曜日	午 前		午 後		
第 1 週	月	8:30 ~ オリエンテーション・ カンファレンス	9:00 ~ 11:00 外来見学・医療面接			
	火	8:30 ~ カンファレンス	9:00 ~ 11:00 外来印象実習		12:30~ 手術室鎮静 or 13:00~ 外来見学	15:00 前後 症例検討講義
	水	8:00 ~ カンファレンス 回診	8:30 ~ 11:00 回診・外来見学 医療面接	11:00 ~ 症例レポート発表	レポート作成（自習）	
	木	8:30 ~ カンファレンス	9:00 レポート作成（自習）		13:30 ~ 15:00 外来外科処置見学	
	金	8:30 ~	手術見学		手術見学	15:00 前後 疾患レポート発表

内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学

1 集合時刻

10時

2 集合場所

内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学講座
基礎臨床研究棟1F 124

3 具体的な目標

- ・一般目標（G I O）
 - 1 糖尿病、内分泌代謝領域の代表的疾患を理解する。
 - 2 臨床検査の異常値が出るメカニズムについて理解し、臨床応用ができる。
- ・行動目標（S B O s）
 - 1-1 糖尿病・内分泌代謝疾患の病態を理解できる。
 - 1-2 糖尿病の合併症を列挙できる。
 - 1-3 糖尿病の各種治療を理解し、患者さんに適した治療を選択できる。
 - 1-4 特に糖尿病におけるインスリン治療の実際がわかる。
 - 1-5 内分泌代謝疾患の治療を理解し、治療を選択できる。
 - 1-6 糖尿病・内分泌代謝疾患に対する先端医療について理解する。
 - 2-1 臨床検査の必要性について理解し説明できる。
 - 2-2 臨床検査値の異常の原因について推論し、鑑別診断が列挙できる。

4 実習内容

糖尿病・内分泌疾患の概要
糖尿病・内分泌疾患の検査値の解釈の実際
糖尿病・内分泌疾患の外来病棟診療
先端医療への取り込み
生理検査：心電図・負荷心電図
検体検査（脂質代謝など）、骨髓検査、フローサイトメトリーの実際、感染症検査
輸血検査の実際

5 EBM活用方針

症例レポート作成時には必ずEBMを提示しながら、診断・治療・考察について記載する。

6 評価方法

レポートの提出

スモールミーティングでの実習態度、討論内容を評価する。

7 実習上の注意

「臨床実習の手引」の「臨床実習上の注意事項」に従う。

時間厳守。出欠は厳重にチェックする。

内分泌代謝の教科書を持参すること。

白衣着用のこと（白衣の下はスクラブ禁止）

8 医学実習Ⅰにて経験できる医行為

- 簡易血糖測定
- 処方薬（内服薬、注射、点滴等）のオーダー
- 食事指示
- 安静度指示

臨床実習時間割

内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学

	曜日	前				後					
		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	
第1週	月		10:00～ 病棟ガイダンス 〈医局（研究棟103室）〉 （福長）	11:30～ 内分泌疾患と画像 〈医局（研究棟103室）〉 （佐伯）							
	火		10:00～ 糖尿病のガイダンス 〈医局（研究棟103室）〉 （井町）		13:00～14:30 内分泌代謝疾患のガイダンス 〈医局（研究棟103室）〉 （村尾）	15:00～16:00 一般検査 〈検査部技師室 （中央診療棟2階）〉 （未定）	16:00～ 病棟実習 〈南病棟7階カンファ レンス室〉	16:30～ 病棟カンファレンス 〈南病棟7階カン ファレンス室〉			
	水	9:00～12:00 病理診断実習 〈病理部（中央診療棟3階）〉 （羽場）				13:00～ 病棟実習 〈南病棟7階カンファレンス室〉		15:30～ 糖尿病治療について 〈医局（研究棟103室）〉 （吉村）	16:30～ 病棟カンファレンス 〈南病棟7階カン ファレンス室〉		
	木		10:00～ 病棟実習 〈南病棟7階カンファ レンス室〉	11:00～ 副腎腫瘍について 〈医局（研究棟103室）〉 （小林）		13:00～14:20 呼吸機能検査 〈医局（研究棟103室）〉 （未定）		15:30～ 病棟実習 〈南病棟7階カンファ レンス室〉	16:30～ 病棟カンファレンス 〈南病棟7階カン ファレンス室〉		
	金		10:00～ 病棟実習 〈南病棟7階カンファ レンス室〉	10:30～ 内分泌疾患概論・ 病棟実習のまとめ 〈医局（研究棟103室）〉（佐伯）			14:00～ 糖尿病の食事指導 〈医局（研究棟103室）〉 （熊野）	15:00～ 内分泌検査の解釈法 〈医局（研究棟103室）〉 （福長）			

小児外科学

1 集合時刻

月、水、金 8時30分
火、木 8時15分

2 集合場所

月、水、金 東2階病棟
火、木 手術室又は医局（手術の有無による）

3 具体的な目標

- ・一般目標（G I O）
実習にて小児外科学に対する知識を深める
- ・行動目標（S B O s）
実際の患児の診察を行う
外来、手術を経験する

4 実習内容

外来、手術、検査、カンファレンス

5 EBM活用方針

症例発表においては必ずEBMを提示しながら診断、治療等を考察する。

6 評価方法

出席、実習態度、課題等により評価

7 実習上の注意

白衣着用、時間厳守
週によって集合場所、時間の変更があるため、実習の前週に確認すること。

8 医学実習Iにて経験できる医行為

- ・尿道カテーテル挿入・抜去
- ・清潔操作
- ・手指消毒（手術前の手洗い）
- ・ガウンテクニック
- ・皮膚縫合
- ・手術助手
- ・妊娠反応検査

臨床実習時間割

小児外科学

	曜日	午 前		午 後	
第 1 週	月	8:30 回診	9:00 外来実習 12:00	/	
	火	8:15 手術実習		13:30 手術実習 17:35	
	水	8:30 回診	9:00 外来実習	13:30 病棟実習及び自主学習 17:35	
	木	8:15 手術実習		13:30 カンファレンス 17:35	
	金	8:30 回診	9:00 外来実習	13:30 病棟実習	17:35 総括

形成外科学

1 集合時刻

月曜日：午前8時

火、木曜日：午前9時

水、金曜日：午前8時30分

2 集合場所

カンファレンス

縫合実習

レポート提出

臨床研究棟310形成外科医局

外来：外来診療棟1階形成外科外来

手術：手術部手術室

3 具体的な目標

・一般目標（G I O）

形成外科学の理念を理解する。

・行動目標（S B O s）

形成外科の代表的な対象疾患とその治療法を列記できる。

体表面の軟部組織損傷に対する基本的な創傷処置を説明できる。

器械縫合ができる。

Z形成のデザイン・皮弁の移動・効果が理解できる。

4 実習内容

外来見学、手術見学

形成外科治療の実際についての講義

縫合実習・創傷処置講義

与えられたテーマについての課題（レポート）

5 EBM活用方針

1. 症例発表においては必ずEBMを提示しながら診断、治療等を考察する。
2. レポートの作成時には考察の根拠となった論文、ガイドライン等を明示する。

6 評価方法

実習の出席及び態度。

レポートにおける情報収集・独創性について評価を行う。

7 実習上の注意

出席・時間を守ること。

患者の前での言動・服装には細心の注意を払うこと。

講義内容を再度チェックし、形成外科の基本的事項を理解しておくこと。

8 医学実習 I にて経験できる医行為

- 手指消毒（手術前の手洗い）
- ガウンテクニック
- 皮膚縫合
- 抜糸
- 手術助手

臨床実習時間割

形成外科学

曜日	午 前		午 後	
月	8:00 カンファ レンス	9:00～9:30 病 棟	外 来	
火	9:00 外 来			
水	8:30 O P		O P	
木	9:00 外 来		16:00～ 縫合実習	17:00～ カンファレンス
金	8:30 O P		O P	

臨床腫瘍学（がんセンター）

1 集合時刻

午前8時20分

2 集合場所

研究棟2階 腫瘍内科医局（256-1）

※タブレットまたはスマートフォン、聴診器を持参すること。スクラブ可。

3 具体的な目標

・一般目標（G I O）

将来臨床医として働く際に重要な思考力・判断力を養うべく、実際の臨床現場に直接参加し、専門性の高いがん集学的治療はもちろん患者に対する一般的な内科対応についても学び、多角的に深く考察することの重要性を理解する。

・行動目標（S B O s）

基本的な診察技術を習得する。

臨床医として、疾病に対する理解のみならず、病者の心理を理解しつつ、担当患者に対するコミュニケーションを行える能力を習得する。

がんに伴う病態の理解、支持療法や、がん告知の基本と実際、インフォームドコンセントの基本と実際について理解を深める。

4 実習内容

- ①pre&post test：実習開始前・実習終了時、webclass上で小テストを行う。
- ②病棟実習：学生各2～3名に対し担当患者1例を割り当てる。医療面接を中心とした患者とのコミュニケーション・身体所見の収集と、これらに基づく診断計画の作成、諸検査所見・画像診断の解釈、さらに、これらに基づく治療計画、そして、その効果の評価の診療プロセスの各段階において、意見を述べ、フィードバックを受ける。また、1日1回カルテ記載をおこなう。
- ③外来実習：実際の外来診療に同席し、バッドニュースの告知を含む患者の医療面接、身体診療を学ぶ。また、初診・再診患者の問診をおこなうことで、コミュニケーションスキルを身につける。
- ④病棟カンファレンス：金曜朝に担当患者のプレゼンテーションを担当する。
- ⑤e-learning：「1. がん総論」「2. がん薬物療法」「3. がんゲノム」「4. 緩和医療」の動画を視聴しておく。また、webclass上の用語集を適宜参照する。

5 EBM活用方針

症例発表においては、患者背景と、EBMに基づいた診療・治療についてプレゼンテーションを行う。

6 評価方法

出席状況、実習の態度、担当症例の理解度・診察態度を総合評価する。

7 実習上の注意

- ・ 集合時間は厳守すること。また何らかの事情で出席できない場合は必ず医局 (oncology-m@kagawa-u.ac.jp) ないし学務課教務係に連絡を入れること（無断欠席を禁ずる）。
- ・ 入院患者と接する際には医師としてふさわしい服装（信頼される人物であると感じさせる服装）で臨むこと。特に清潔さに関しては十分に配慮すること。
- ・ 受け持ち患者とその家族とには、医学生として良識のある行動をとること。精神的に不安定な患者もいることを念頭に不用意な言動を慎むことはもちろん、診断や病状などの質問に対しては主治医を通じて答えること。
- ・ 報告書やカルテ内容を鵜呑みにするのではなく、患者の状況やデータ・画像を自ら読解し判断する態度を身につけること。担当医と積極的に討論すること。
- ・ 電子カルテ等からのプリントアウトは担当医の許可なく外に持ち出さないこと。
- ・ カルテなどから得た情報は守秘すること。ネットに接続されたパソコンでは個人情報を含む文書を作成しないなど、個人情報保護には特に細心の注意を払うこと。
- ・ 特別な感染症対策が必要な状況下においては、実習内容を変更することがある。

8 医学実習 I にて経験できる医行為

- ・ 診療記録記載（診療録作成） ・ 医療面接 ・ バイタルサインチェック
- ・ 診察法（全身・各臓器） ・ 直腸診察 ・ 高齢者の診察（ADL 評価、高齢者総合機能評価）
- ・ 皮膚消毒 ・ 外用薬の貼付・塗布 ・ 静脈採血 ・ 末梢静脈確保 ・ 胃管挿入
- ・ 超音波検査（心血管） ・ 超音波検査（腹部） ・ 心電図検査
- ・ 経皮的酸素飽和度モニタリング ・ 診療計画の作成

臨床実習時間割

腫瘍内科

	曜日	午 前	午 後	
第 1 週	月	8:30 消化器癌 カンファレンス	カンファレンス終了後～11:00 教授回診, 患者紹介 pre - test	
	火	8:30 病棟回診	10:00頃 教授外来見学または 外来実習または 病棟実習	
	水	8:30 抄読会 ↓ 病棟回診	10:00 教授外来見学または 外来実習または 病棟実習	
	木	8:30～ 病棟回診→病棟実習		13:30～ 緩和ケア カンファレンス
	金	8:30 病棟・外来 カンファレンス	9:00 実習のまとめ (post - test)	16:00頃 がんゲノム医療について (エキスパートパネル見学)

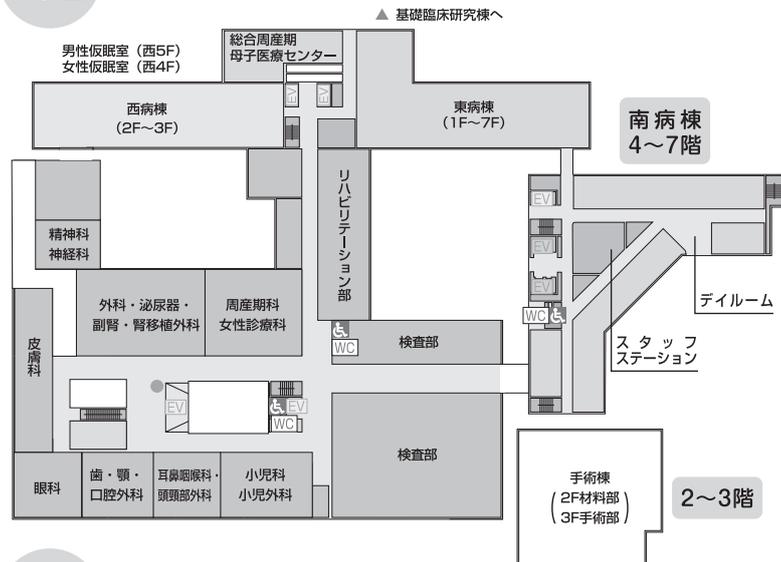
腫瘍内科医局

TEL : 087-891-2476

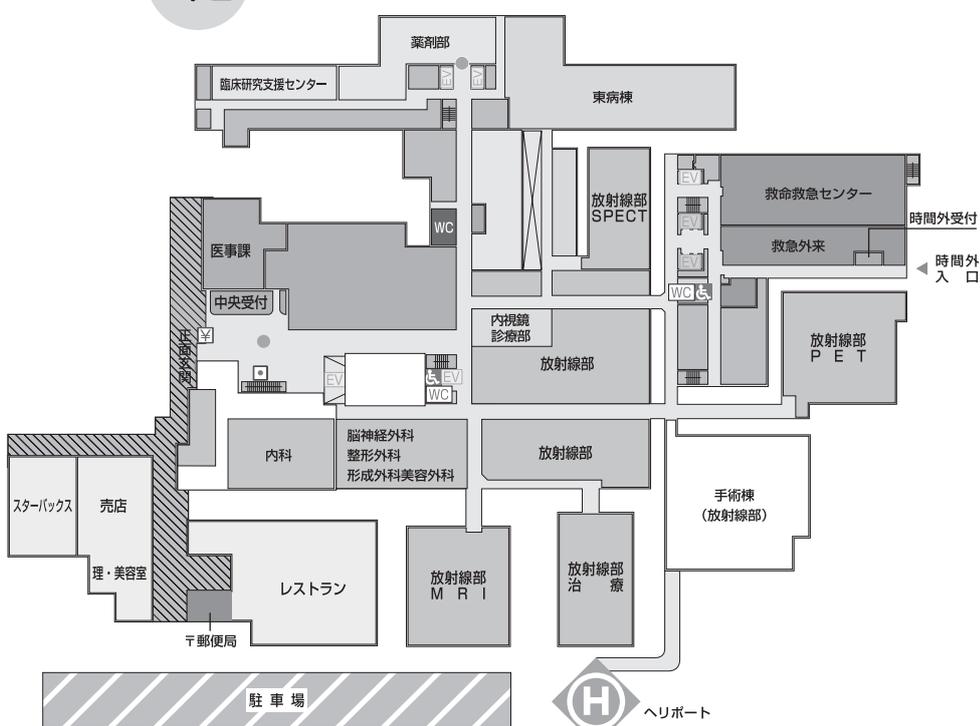
E-mail : oncology-m@kagawa-u.ac.jp

V 附属病院の案内

2階



1階



診療科受付	ご意見箱	エレベーター	トイレ	階段
病棟・病室	再来受付機 (4台)	スタッフ専用エレベーター	身障者用トイレ	自動精算機 (3台)

西病棟

5F	男性仮眠室・学生自習室
4F	医療情報部・係 女性仮眠室
3F	精神科神経科
2F	周産期女性診療科 総合周産期母子医療センター
1F	薬剤部 臨床研究支援センター
B1F	病理部

東病棟

7F	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 形成外科・美容外科 歯・顎・口腔外科
6F	眼科 皮膚科 整形外科
5F	総合内科 消化器内科
4F	整形外科
3F	泌尿器・副腎・腎移植外科 腎臓内科 整形外科
2F	小児科 小児外科 形成外科・美容外科
1F	RI (放射線診断科) 腫瘍内科 放射線診断科 麻酔・ペインクリニック科

南病棟

7F	血液内科 膠原病・リウマチ内科 内分泌代謝内科
6F	呼吸器内科 呼吸器外科 抗加齢血管内科
5F	消化器外科 乳腺内分泌外科
4F	脳神経外科 脳神経内科
3F	心臓血管センター 循環器内科 心臓血管外科 集中治療部
2F	周産期科女性診療科
1F	救命救急センター 救命救急センターICU

中央診療棟

3F	手術部 麻酔・ペインクリニック科 血液浄化療法室 病理部 病理診断科
----	--